

公募テーマ：

テーマC. 「未来の教室」ビジョン2.0の実現に関するテーマ

(c) 「そもそも論」「目的と手段」から話せる職員室に関するテーマ



# ルールメイカー育成プロジェクト 2022

認定特定非営利活動法人カタリバ

報告書提出日 2022年2月24日

未来は、つくれる。

**KATARIBA**

*Shape the Future*



RULE MAKING

# テーマC. 「そもそも論」「目的と手段」から話せる職員室」に関する実証事業サマリ：カタリバ

## 実証を通じて解決したい課題と実証成果

### 背景 及び 実証 概要

学校を「高信頼性組織」へと変化させるためには、ルールメイキング等の対話を促す取組が必要なため、ルールメイキングの目指す姿や、全国展開に向けた方法論を確立する



### 成果

#### ①ルールメイキング事業のあるべき姿を特定

- 全国に9つの共助コミュニティを立ち上げ、全国事務局の伴走機能を地域移管していく。
- 共助コミュニティ内では、教員間での「ナナメの関係」が醸成され、ナレッジや悩みの共有、学校間連携が活発に行われる状態を目指す。
- 全国事務局（NPOカタリバ）は、共助コミュニティマネージャーとともに、共助コミュニティによって、ルールメイキングを支援する。

#### ②面の拡大に向けたロードマップ策定

- 2025年度に全国9つの地域エリアに共助コミュニティを立ち上がっている状態を目指す。
- コミュニティの軸となる共助コミュニティマネージャーを各地域エリアから募集、連携する。

## 実証内容

9月	10月	11月	12月	1月	2月
	①外部講師 10校での実証検証		①外部講師 研修パッケージの作成		
	②情報プラットフォーム 立ち上げ・Q&Aの作成				
	③教員コミュニティ 交流会の実施／生徒向けイベント実施／共助コミュニティの開発				
	④サミット 企画・実施				
	⑤自治体連携 つくば市での実践				
	⑥ムーブメント 出版企画		⑥ムーブメント 情報発信／オウンドメディアのリニューアル		
	⑦効果検証 研究設計		⑦効果検証 調査実施		⑦効果検証 分析・まとめ

# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実証内容
4. 実施体制・実証フィールド
5. 成果
6. 今後の展開

# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実証内容
4. 実施体制・実証フィールド
5. 成果
6. 今後の展開

## 未来は、つくれる。

*Shape the Future*

たくさんのものを失った被災地の子も、

貧しい家庭環境の中で夢を諦めた子も、

日々ただボンヤリと過ごす子も。

どんな環境に生まれ育ってもすべての10代が、

未来をつくりだす意欲と創造性を育める。

NPOカタリバは、そんな未来の当たり前を

目指して2001年から活動しています。

### Vision

どんな環境に生まれ育っても、  
未来をつくりだす力を育める社会

### Mission

意欲と創造性をすべての10代へ

# 1. 認定NPO法人カタリバ

## Theme 1

誰ひとり取り残さずに学びにつなぐ

生まれた環境による「キッカケ格差」を無くしていく

## Theme 2

未来をみずから切り拓く力を育む

日本中の子どもたちに本物の「マイプロジェクト」を

1



### プログラム提供型事業

学校や放課後の居場所施設や  
地域に意欲と創造性を育む  
プログラムを届ける

2



### サードプレイス型事業

放課後や学校外の居場所として  
地域のニーズや課題に合わせた  
10代のための施設を運営

3



### ハンズオン型事業

高校・行政の中に入り込み、  
探究的な学びのサポートや、  
地域の教育環境づくりを実施

# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実証内容
4. 実施体制・実証フィールド
5. 成果
6. 今後の展開

## 2. 背景と目指すべき姿

急激に変化する社会において、**地域の未来を担う若者が、自立した個人として、自らの生きる環境を主体的に切り開く力を育むための支援**が、今必要とされています。

### 背景①「社会に意欲を持ってない日本の若者たち」と「意見表明する機会保障」

日本の10代の現状を見ると、他国と比較し、「**社会参加への効力感の低さ**」が指摘されています。このことから、こども家庭庁の設置やこども基本法が制定されるなど、日本のこども・若者政策の再編が急がれています。こども基本法の基本理念として「**こどもの意見を表明する機会・多様な社会的活動に参画する機会の確保**」が明記され、こども・若者を自立した市民へと育むためにの施策が求められています。

この基本理念の実現には、**小中高校生の頃に、自分の意見が聞き入れられる体験や、身の回りの小さな課題に気づき、それが自らの働きかけによってポジティブに変化する経験をしていくことが重要です。意見表明する機会保障**とともに、多様な背景を持つ子どもたちが快適に学ぶことができる環境づくりや、他者に耳を傾け、意見が違う中で多くの立場にとっての納得解をつくる力／**こども・若者の意見表明する力を同時に育むこと**が求められています。

(単位：%)	自分は責任がある社会の一員だと思ふ	自分の行動で、国や社会を変えられると思ふ	国や社会に役立つことをしたいと思ふ	政治や選挙は、自分の生活に影響すると思ふ	政治や選挙、社会問題について、関心がある	政治や選挙、社会問題について、自分の考えを持っている
日本	48.4	26.9	61.7	60.9	50.0	42.1
アメリカ	77.1	58.5	73.0	64.0	51.7	68.5
中国	77.1	70.9	82.1	70.1	66.1	73.3
韓国	65.7	61.5	75.2	69.5	61.3	61.1

▲1000人の10代への意識調査(日本財団)

#### こども基本法(令和4年法律第77号)概要

目的

- 日本国憲法及び児童の権利に関する条約の精神にのっとり、次代の社会を担う全てのこどもが、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、こどもの心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、その権利の擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指して、こども施策を総合的に推進すること

定義

- 「こども」……心身の発達過程にある者
- 「こども施策」……①～③の施策その他のこどもに関する施策・これと一体的に講ずべき施策
  - ① 新生児期、乳幼児期、学童期及び思春期の各段階を経て、おとなになるまでの心身の発達過程を通じて切れ目なく行われるこどもの健やかな成長に対する支援
  - ② 子育てに伴う喜びを実感できる社会の実現に資するため、就労、結婚、妊娠、出産、育児等の各段階に応じて行われる支援
  - ③ 家庭における養育環境その他のこどもの養育環境の整備

基本理念

- ① 全てのこどもについて、個人として尊重されること・基本的権利が保障されること・差別的取扱いを受けることがないようにすること
- ② 全てのこどもについて、適切に養育されること・生活を保障されること・愛され保護されること等の福祉に係る権利が等しく保障されるとともに、教育基本法の精神にのっとり教育を受ける機会が等しく与えられること
- ③ 全てのこどもについて、年齢及び発達程度に応じ、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会・多様な社会的活動に参画する機会が確保されること
- ④ 全てのこどもについて、年齢及び発達程度に応じ、意見の尊重、最善の利益が優先して考慮されること
- ⑤ こどもの養育は家庭を基本として行われ、父母その他の保護者が第一義的責任を有するとの認識の下、十分な養育の支援・家庭での養育が困難なこどもの養育環境の確保
- ⑥ 家庭や子育てに夢を持ち、子育てに伴う喜びを実感できる社会環境の整備

▲こども基本法

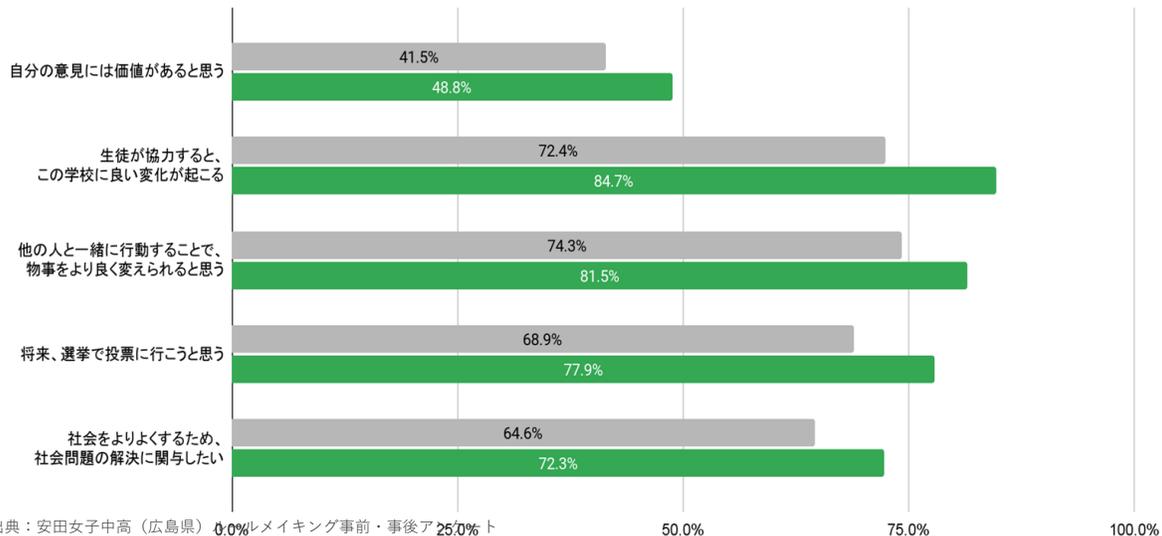
## 2. 背景と目指すべき姿

2019-2021年の取り組みにおいて、ルールメイキングは、ポジティブな生徒／教員／学校変化を生み出し、**一部の学校では「高信頼性組織」へと変化させる可能性があることが示唆されました。**2022年度実証事業では、ルールメイキングが高信頼性組織に寄与することを狙いつづけることができるのか、そのために必要な諸条件は何かを明らかにする、さらなる検証の必要性があります。

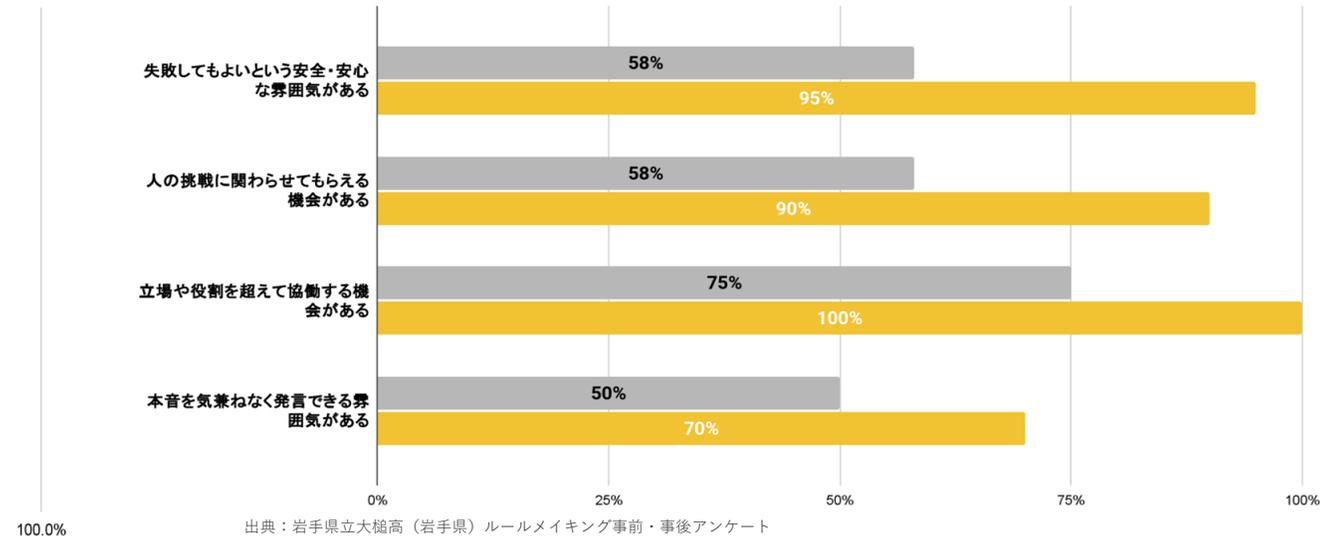
### 背景②ルールメイキングが生み出す生徒／教員／学校の変化

ルールメイキングプロジェクトに参加した生徒には、**自己肯定感や自己効力感、当事者意識が上がる調査結果**が見られました。ルールメイキングの活動は、自分たちの参加で学校や社会が変えられるかもしれないという感覚（効力感）を生徒たちに育む経験になっています。生徒たちにとってルールメイキングの活動は、さまざまな人との対話の意義を実感し、ルールについての考えを深め、より良い学校や社会を自分たちの手で作っていく貴重な経験になっています。

同時に、**職員室の雰囲気や、教員の関係性にもポジティブな調査結果**が見られました。ルールメイキングを通して、学校風土や対話文化の醸成といった、学校全体の変化が起こることが示唆されました。



出典：安田女子中高（広島県）ルールメイキング事前・事後アンケート  
数値：4件法による肯定的回答（そう思う／まあそう思う）の割合  
事前調査：2020年5月 事後調査：2021年6月



出典：岩手県立大槌高（岩手県）ルールメイキング事前・事後アンケート  
数値：4件法による肯定的回答（そう思う／まあそう思う）の割合  
事前調査：2020年 事後調査：2021年

「校則」を切り口に、全国の学校に対話の文化を届け、高信頼性組織へとアップデート。

---

本事業は、学校が高信頼性組織に近づくための取り組みとして、学校に関わる全員が当事者として関係している「校則」を題材として様々な立場から対話を重ね納得解を導いていくルールメイキングの普及に取り組みます。

納得解をつくるプロセスにおいて「そもそも校則とは何か？」「そもそも学校とは何か？」「学校は何のためにあるのか？」に立ち返り、教員と生徒／教員同士で「そもそも論」「目的と手段」の対話機会を生み出します。教員が安心安全を感じることができる職員室へ、そして学校全体をより高信頼性組織に変化させていくことを目指します。

学校を高信頼性組織に近づけるための取り組みとして、ルールメイキングをどのようにアップデートする必要があるのか、教員を支援するためにどのような仕組み・体制が必要なのか、検証します。

# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実証内容
4. 実施体制・実証フィールド
5. 成果
6. 今後の展開

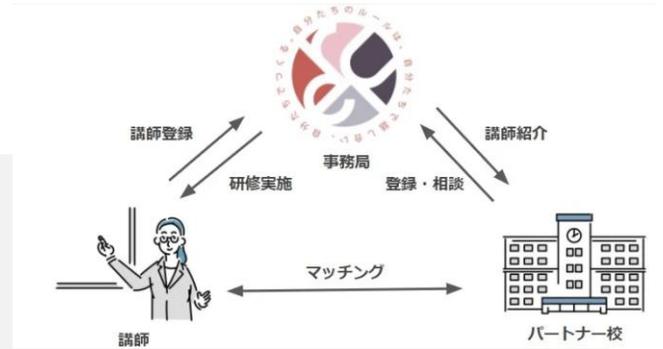
### 3. 実施内容

	狙い	取り組み内容
①外部講師の採用・育成・派遣制度づくり	教員が「そもそも論」「目的と手段」など問題・課題について対話できる場を提供できる第三者人材を安定供給できるような仕組みを作る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間人材／弁護士を10校に講師派遣することを通して、効果的な研修ポイントの抽出。</li> <li>・学校に「外部の視点」を投入し、先生・生徒の思考変容を促す研修パッケージの開発。</li> </ul>
②情報プラットフォームの開発	ルールメイキング実践に取り組みたいと思った人がアクセスできる情報プラットフォームを構築する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職や担当教員が動く校内調整方法や学校運営協議会との連携事例を掲載した実践ガイドの作成。</li> <li>・ガイドや教材をまとめた情報プラットフォームの構築。</li> </ul>
③教員コミュニティの運営／地域モデル開発	全国規模の教員コミュニティを醸成することで、先進事例校とパートナーとの「ナナメの関係」を形成し、教員同士での助け合いやルールメイキング活動実践が促進される状態を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パートナー教員コミュニティの構築</li> <li>・実践報告を軸とした教員交流会の開催</li> <li>・全国／地域エリアでの生徒交流会の開催</li> <li>・生徒向けイベントの開催</li> </ul>
④ルールメイキングサミットの開催	ロールモデルの発掘・発信と、教育界に留まらずに「ルールメイキングとは何か」を探究し続ける場を持つことで、ムーブメントをつくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国から実践校を募集し、ロールモデルの発信を行う。</li> <li>・ビジネス界など教育界以外にも多様なゲスト講師を呼び、生徒との対話を行う。</li> </ul>
⑤自治体連携（自治体全域モデル）の開発	自治体を上げてルールメイキングに取り組むために、自治体一学校（首長一担当職員一校長・管理職一担当教員）の各アクターに必要な効果的な支援を明らかにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくば市と連携した「自治体全域モデル」を開発する。</li> </ul>
⑥出版・広報によるムーブメントづくり	ルールメイキングに関する情報発信を通じて、取り組む意欲を喚起し、ルールメイキング実践数増加へとつなげる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公式SNS、Webページの改修・運用</li> <li>・専門誌／一般メディアへの寄稿</li> <li>・ルールメイキング書籍の出版</li> </ul>
⑦高信頼性組織への波及効果検証 ※調査概要含めて「5.成果」まとめて掲載	学術的な研究を通して、ルールメイキングが及ぼす高信頼性組織／探究・STEAM等の教育活動への波及効果について、明らかにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学術的な研究チームの発足</li> <li>・追跡調査／効果検証の実施</li> <li>・複数校での高信頼性組織尺度の評価検証</li> </ul>

# 3. 実施内容

## ① 外部講師の採用・育成・派遣制度づくり

学校が弁護士やファシリテーターといった外部人材の活用を希望した場合に、実践支援を専門とする外部人材を派遣できるよう、事務局が採用・育成・派遣を行う制度です。ルールメイキングの実践を第三者として支える**外部講師派遣制度の確立**と、**誰もがルールメイキング支援者（講師）になれる研修プログラムの開発**の2軸で実施しました。



### 1) 講師派遣制度 事例づくり・ポイント抽出

#### 実施概要

教員研修と弁護士対話の2パターンにわけて、講師派遣による事例づくり・ポイント抽出のための実証を10校のパートナー校に対して行いました。

派遣講師は、ルールメイキング講師として登録している民間人材にあたるルールメイキングコーディネーターと弁護士とした。実際に学校へ派遣し、実際の現場で講師が抱える課題や、必要なスキル、効果的なプログラムについて検証しました。

#### 教員研修

学校内で教員のルールメイキングへの理解を促進するため、研修講師をカタリバより派遣

名古屋経済大学付属市邨高等学校

大阪府立山田高校

愛知県立足助高等学校

延岡市立岡富中学校

札幌市立手稲中学校

#### 弁護士対話

生徒を対象としたルールについて学ぶ出張講座のため、弁護士をカタリバより派遣

愛媛県丹原高等学校

南丹市立八木中学校

福岡女子商業高等学校

枚方市立楠葉西中学校

純心女子高等学校

### 2) 研修プログラムの開発

#### 実施概要

1)の実績をもとに、ルールメイキングコーディネーターと弁護士が、現場で使える研修プログラム及びツールキットを開発しました。



# 3. 実施内容

## ② 誰でも実践できる情報プラットフォーム開発

情報プラットフォーム開発として、パートナー向け情報プラットフォームをNotionで作成しました。2021年度に作成したSTEAMライブラリー（動画教材・教員ガイド）に加えて、これまでに実施した勉強会・イベント動画を掲載しています。さらに、新たに開発する必要性が出てきた担当教員や管理職の先生に向けたより**実践的なガイドをQ&A方式**でまとめました。また、新たな取り組み事例として学校運営協議会などの学校外部を巻き込んだ事例を紹介するページも開設しました。

### 1. はじめに

#### ルールメイキング・パートナーへようこそ！

ここは校則見直しに取り組む学校・先生方が気軽に頼れるプラットフォームです。

- 同じく校則見直しに取り組む全国の先生方との出会い
  - より対話的にプロジェクトを進められるヒントとしての教材提供
  - 困りごとや他校の事例に触れられる個別相談
  - 学校をひらき、新しい風を吹かせてくれる外部人材の紹介
- このようなことができる教員・教育関係者のコミュニティです。

#### NEWS

- ・ 2022/05/13 パートナーダッシュボードが開設されました！ [VIEW MORE→](#)
- ・ 2022/04/27 【パートナー向け】2022年4月から「講師派遣制度」をスタートいたします [VIEW MORE→](#)

### 2. 利用できること

「ルールメイキング・パートナー」というプラットフォームを通じて利用できることをまとめました。ぜひお気軽にご利用ください。

#### 事務局への個別相談



事務局への個別相談が可能です。2種類の相談方法から選ぶことができます。

- 📍 オンライン相談会（Zoo...）
- 📍 チャット相談（Slack）

#### 外部講師の派遣



このダッシュボード上でできること

- 📍 外部講師を呼ぶためには
- 📄 講師一覧

?

## 新たに開発した教員向け情報

1

### 校内調整実践ガイド（Q & A方式）

担当教員や管理職の先生が、学校内でどのように**関係調整**をしていけばよいのかをまとめました。

2

### 学校外部を巻き込んだ実践事例ガイド

**学校運営協議会との連携事例**など、学校内部に留まらず、**外部のステークホルダーを巻き込んだ事例**を収集し、まとめました。

# 3. 実施内容

## ③ ルールメイキングを支える「ナナメの関係」ー教員コミュニティ

全国の教員同士がつながり、先進事例校とパートナー校との、パートナー校同士の「**教員間のナナメの関係**」を生み出していく教員コミュニティを醸成する実践を行いました。slackを用いた日常的なオンラインコミュニティとしてのslack運用や教員交流会などのイベント開催によって、教員コミュニティを醸成してきました。また、生徒向けの発表会や勉強会も開催しました。教員コミュニティを軸に、ルールメイキング実践者やこれから取り組みたい学校・教員を支えるパートナー制度への参加を促進し、ルールメイキング実践校の広がりを生み出しました。

### 教員コミュニティづくり「教員勉強会」

#### 【目的】

- ・パートナー・先進事例校の教員同士をつなぎ、悩みや実践知を共有し合える場をつくる
- ・ルールメイキング実践校同士で相談し合えるための関係性を築き、パートナー校の実践を進めるうえでのヒントを得る

#### 【実施内容】

- 第一回 実践事例報告：栃木県立足利清風高等学校
- 第二回 実践事例報告：千葉県立姉崎高等学校
- 第三回 弁護士と「学校の校則」を考える
- 第四回 ルールメイキングサミット2022学びのシェア
- 第五回 実践事例報告：吹田市立豊津中学校  
つくば市立吾妻小学
- 第六回 実践事例報告：愛知県立足助高等学校
- 第七回 実践事例報告：つくば市立二の宮小学校  
笛吹市立春日居小



### 関西地域 生徒大会

2023年1月21日(土)に校則見直しの実践報告会「ルールメイキング 生徒大会」を大阪梅田にて開催しました。関西地域でルールメイキングに取り組む学校を中心に7校が参加し、リアル会場でのポスター発表や振り返りワークショップを行いました。オフラインでの生徒交流・教員交流は、熱量の高い場となりました。



# 3. 実施内容

## ③ ルールメイキングを支える「ナナメの関係」ー教員コミュニティ

### 全国生徒交流会／生徒向け勉強会

「みんなのルールメイキング」コラボイベント

ZOZO × KATARIBA

ZOZOのユニークなルールって？  
「自分らしさ」を大切に  
ルールを作るためには。

中高生対象

2022.12.26 MON 14:00-16:00  
オンライン (Zoom) 参加無料

株式会社ZOZO フロンティアマネージメント 篠田ますみさん  
株式会社ZOZO フロンティアマネージメント 鹿子聡美さん

A grid of Zoom meeting thumbnails showing participants in a virtual classroom setting.

▲株式会社ZOZOの社員の方をお迎えし、全国生徒交流会を開催しました。全国から50名の生徒が参加し、互いの実践から学び合う時間となりました。

change.org × KATARIBA

多様な学校・社会に  
するために  
必要な対話とは

参加中高生一般観覧者 募集中!

受けとめ方  
伝える方  
生むための  
共感を

2022.12.10 sat YouTubeライブ配信 19:00-21:00  
※YouTube配信は19:15開始 参加無料

change.org スタッフ 遠藤まめた  
モデレーター 認定NPO法人カタリバ 古野香織

▲一般社団法人にじず 遠藤まめたさんと連携し、YouTubeライブにてイベントを実施しました。同時接続で66名が参加しました。

### 中高生向け講座 (KATARIBA ONLINE for Teens)

KATARIBA ONLINE

探究ゼミ  
社会を変える「リーダーシップ」  
まずは“校則”をキッカケに対話しよう  
2022.09.01 [Thu] 20:00-21:30

講師：古野香織  
認定NPO法人カタリバ職員  
「みんなのルールメイキング」事務局を担当

探究ゼミ  
社会を変える「リーダーシップ」  
VOL.2  
全国の中高生と考える！  
学校・社会のアップデート入門

▲「社会を変える”リーダーシップ”ー全国の中高生と考える学校・社会のアップデート入門」というタイトルで、校則見直しについて考えるイベントを定期開催しました。

## 2. 実施内容

④

### ルールメイキングサミットの開催

全国でルールメイキングに取り組む先生・生徒や専門家などのルールメイキング関係者が一堂に会して「**ルールメイキングとは何か？**」を探究する場として9月24、25日に開催しました。ルールメイキングの新たな可能性を発見する場になるだけでなく、**ルールメイキングを社会に広く発信するツール**として発信に力を入れました。またサミットへの協力企業として、カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社に会場提供の協力をいただき、企業連携の事例となりました。

#### 開催趣旨・目的

① **ルールメイキングの実践事例発掘**  
2021年度の実証事業校に限らず、新たにルールメイキング実践を始めた学校や、独自にルールメイキングに取り組んできた学校が発信する場を作り、新たな実践事例を発掘する。

② **ルールメイキングの意義探究**  
多様な業界で活躍するゲストと生徒の対話を通じて、ルールメイキングの実践との共通の価値を探究する。  
さらに、多様な視点からルールメイキングについて考えることを通じ、生徒の関心・視野を広げる。

③ **実践校のエンパワメント**  
同じようにルールメイキングを実践する全国の仲間と出会い学びあうことで、これからの実践のエネルギーを得る。

#### 参加校

校則見直しの成果の有無(既に校則が見直されたかどうか)に関わらず、ルールメイキングのプロセスを実践している学校を公募しました。



コンテスト形式ではなく、参加した全ての学校へ発表機会をつくり、ルールメイキングを実践する生徒の一つの活動目標となる機会としました。

#### 登壇ゲスト

教育分野で活躍する方だけでなく、ビジネス・文化など多様な立場から社会課題解決に取り組む方をゲストにお迎えしました。

社会課題の解決プロセスと、ルールメイキングの実践プロセスとの共通点に気づくことができました。

苦野一徳さん(熊本大学教育学部 准教授)  
讃井康智さん(株式会社ライフイズテック 最高教育戦略責任者・取締役)  
神野元基さん(合同会社LINKALL 代表/Qubena 開発者)  
遠藤まめたさん(一般社団法人にじーず 代表)  
渡部カンコロンゴ清花さん(NPO法人WELgee 代表)  
杉山文野さん(株式会社ニューキャンパス 代表)  
岩本涼さん(株式会社TeaRoom 代表・茶道家)  
今村久美(認定NPO法人カタリバ 代表理事) ※順不同



## 2. 実施内容

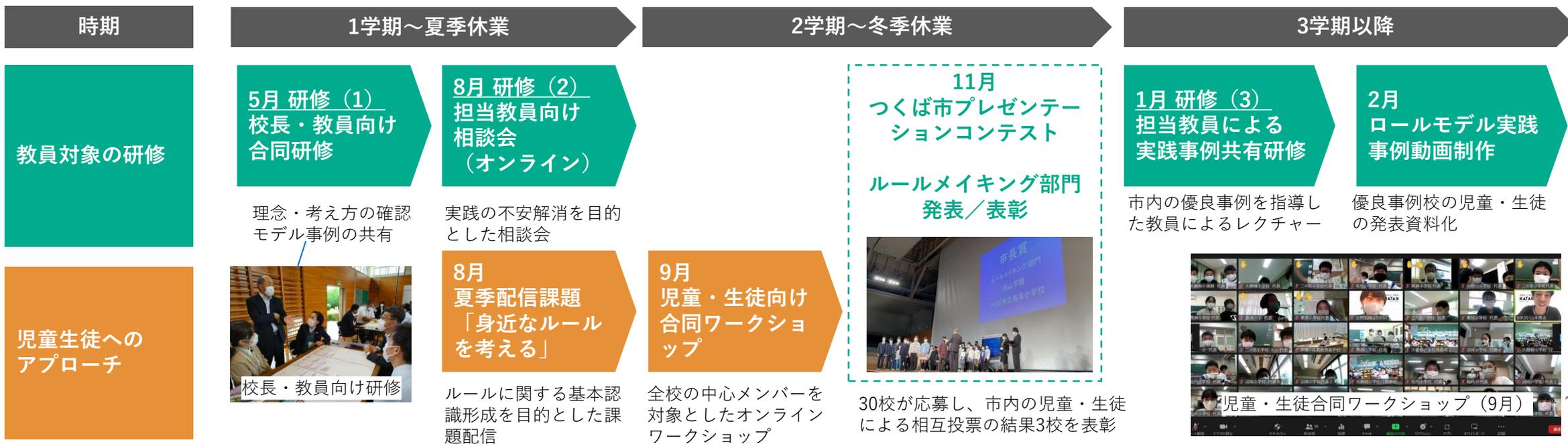
### ⑤ 自治体連携モデル開発 つくば市と連携した全域実施

茨城県つくば市と連携して、市内45校の小・中・義務教育学校でルールメイキングを行いました。つくば市教育局学び推進課・今年度より発足した校長会プロジェクトチームと連携し、ルールメイキングに取り組む上での必要なサポートを実証しました。

#### 令和4年度 つくば市との連携

■連携先：つくば市学び推進課／校長会プロジェクトチーム

■実施内容：①教員を対象とした集合研修（年間3回） ②児童・生徒を対象とした課題配信およびワークショップ ③優良事例の展開・資料化による普及



## 3. 実施内容

### ⑤ 自治体連携モデル開発 生徒指導に関する研修講師

教育委員会が主催するカタリバが講師となりルールメイキングのエッセンスを伝える講演会実施を進めました。ルールメイキングの考え方や具体事例を伝えることで、各学校でのルールメイキング実践へとつなげていくことを狙いました。

#### 2022年登壇実績 全6件

尼崎市 子ども青少年局（7月）／静岡市教育委員会（10月）／枚方市教育委員会（10月）／福島県教育委員会（10月）／  
尼崎市生徒指導推進協議会（12月）／目黒区教育委員会（12月）

#### 登壇事例（抜粋）

##### 静岡市教育委員会

###### 【目的】

- ・校則の見直しに関する他の自治体での取組状況を知り、今後の自校での手立て立案や対応に資する。
- ・児童生徒を主体とした取組や校則の見直しの在り方等について理解する。

###### 【日時】

10月5日（水）

###### 【対象】

静岡市立各小・中学及び高等学校の校長

##### 枚方市教育委員会

###### 【目的】

- ・集団活動に自主的に取り組む生徒会の実践発表をもとに、子どもの主体の学校を実現する指導力の向上に資する。

###### 【日時】

10月21日（金）

###### 【対象】

枚方市内各中学校の生徒指導部長 及び市内有志の教職員

##### 福島県教育委員会

###### 【目的】

- ・校則の見直しについて正しい理解を深め、学校が積極的に校則の見直しに取り組むための一助とする。

###### 【日時】

10月27日（木）

###### 【対象】

- ・県立高等学校 教頭及び生徒指導主事
- ・その他 希望者 各教育事務所指導主事、教育センター指導主事、公立小・中学校及び特別支援学校教員等

##### 尼崎市生徒指導推進協議会

###### 【日時】

12月15日（木）

###### 【対象】

- ・生徒指導連絡協議会
- ・市内小中の生徒指導担当



## 2. 実施内容

### ⑥ 出版・広報・情報発信によるムーブメントづくり

ルールメイキングの情報発信、広報活動によるルールメイキングの認知拡大とパートナー登録における意欲の形成を行いました。9月には、苫野一徳氏監修のルールメイキング書籍を出版しました。また、教育専門誌や地方メディアへの取材獲得を積極的に行い、ルールメイキングムーブメントを情報発信から加速し世論形成に寄与しました。2月にはサイトをリニューアルして情報発信の強化に努めました。



#### オウンドメディアのリニューアル

パートナー登録を行った先生方の約6割が公式HPからの流入であることから、ルールメイキングについての情報収集や取組みを始めたい教員の入り口として、事例記事のSEOを高めるために、記事投稿機能をWEBサイトに追加するリニューアルを実施しました。記事更新の他、先生・中高生・自治体関係者・保護者に向けた各種ページも追加しました。



#### 専門誌・マスメディアへの広報活動

教育専門誌やマスメディアへの戦略的な露出を目指す広報活動を行いました。オウンドメディアでは届かない層へ情報を届けたり、地方メディアへの露出で自治体内でルールメイキングを認知してもらえるような取り組みを行いました。



#### ルールメイキング書籍を出版

ルールメイキング書籍「校則が変わる、生徒が変わる、学校が変わる みんなのルールメイキングプロジェクト」を出版しました。

# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実証内容
4. 実施体制・実証フィールド
5. 成果
6. 今後の展開

## 4. 体制・実証フィールド

### 実施体制

---

#### ■事業受託者：認定特定非営利活動法人カタリバ

- 統括責任者           ：今村久美（代表理事）
- 執行責任者           ：菅野祐太（ディレクター）
- 渉外担当             ：山本晃史
- 事務局                ：藤本雅衣子・古野香織・起塚拓志・阿部愛里

#### ■アドバイザー（監修）／パートナー

- 熊本大学 苫野一徳氏（プロジェクト全体監修・アドバイザー）
- 筑波大学 古田雄一氏（評価指標作成・研究パートナー）

#### ■外部講師（2月現在）

- 根本藍氏（弁護士）
- 飯田亮真氏（弁護士）
- 南川克博氏（弁護士）
- 磯野史大氏（弁護士）
- 坂栄鷹子氏（弁護士）

- 上松恵子氏（教育コンサルタント）
- 小森山努氏（民間企業）
- 井上愛里氏（民間企業）
- 藤田盛資氏（メディア関係者）
- 片岡一樹氏（NPO職員）
- 今井直人氏（NPO職員）
- 藤原未怜氏（NPO職員）
- 鈴木晴也氏（地域おこし協力隊）

### 実証フィールド

---

- 全校のルールメイキング実践校  
2月現在、全国195校（先進事例校／パートナー校／自治体連携校）がカタリバと連携しています。
- 茨城県つくば市教育委員会

# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実証内容
4. 実施体制・実証フィールド
5. 成果
6. 今後の展開

## 5. 成果

	狙い	取組み内容	成果
①外部講師の採用・育成・派遣制度づくり	教員が「そもそも論」「目的と手段」など問題・課題について対話できる場を提供できる第三者人材を安定供給できるような仕組みを作る。	<ul style="list-style-type: none"><li>・民間人材／弁護士を10校に講師派遣することを通して、効果的な研修ポイントの抽出。</li><li>・学校に「外部の視点」を投入し、先生・生徒の思考変容を促す研修パッケージの開発。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・外部講師の研修パッケージ（研修実践ガイド・投影資料・台本）が完成し、民間人材／弁護士が生徒のルールメイキング活動支援／教員間の対話促進機会を届けられる状態になった。</li></ul>
②情報プラットフォームの開発	ルールメイキング実践に取り組みたいと思った人がアクセスできる情報プラットフォームを構築する。	<ul style="list-style-type: none"><li>・管理職や担当教員が動く校内調整方法や学校運営協議会との連携事例を掲載した実践ガイドの作成。</li><li>・ガイドや教材をまとめた情報プラットフォームの構築。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・意志ある教員が、ルールメイキング実践に移行したいと考えたときに必要な情報や教材・ガイドを入手することができるようになった。</li></ul>
③教員コミュニティの運営／地域モデル開発	全国規模の教員コミュニティを醸成することで、先進事例校とパートナーとの「ナナメの関係」を形成し、教員同士での助け合いやルールメイキング活動実践が促進される状態を目指す。	<ul style="list-style-type: none"><li>・パートナー教員コミュニティの構築</li><li>・実践報告を軸とした教員交流会の開催</li><li>・全国／地域エリアでの生徒交流会の開催</li><li>・生徒向けイベントの開催</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ルールメイキング実践校が192校参加する教員コミュニティまで、拡大した。</li><li>・先進事例校とパートナーの、パートナー同士の「ナナメの関係」を育むことができ、自発的な学校感交流会が5件生まれた。</li><li>・生徒同士も学校を越えた交流により、生徒たちの「当たり前」の更新や実践知の交換が行われる状態になった。</li></ul>
④ルールメイキングサミットの開催	ロールモデルの発掘・発信と、教育界に留まらずに「ルールメイキングとは何か」を探究し続ける場を持つことで、ムーブメントをつくる。	<ul style="list-style-type: none"><li>・全国から実践校を募集し、ロールモデルの発信を行う。</li><li>・ビジネス界など教育界以外からも多様なゲスト講師を呼び、生徒との対話を行う。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・全国の生徒、教員、有識者などとの対話を通してルールメイキングの新たな可能性「ルールメイキングと社会解決プロセスの親和性」が明らかになった。</li><li>・ルールメイキングの価値を広く社会に発信する契機となった。</li></ul>
⑤自治体連携（自治体全域モデル）の開発	自治体を上げてルールメイキングに取り組むために、自治体一学校（首長一担当職員一校長・管理職一担当教員）の各アクターに必要な効果的な支援を明らかにする。	<ul style="list-style-type: none"><li>・つくば市と連携した「自治体全域モデル」を開発する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自治体で一環してルールメイキングを推進するために必要な支援メニューが明らかになった。</li></ul>
⑥出版・広報によるムーブメントづくり	ルールメイキングに関する情報発信を通じて、取り組む意欲を喚起し、ルールメイキング実践数増加へとつなげる。	<ul style="list-style-type: none"><li>・公式SNS、Webページの改修・運用</li><li>・専門誌／一般メディアへの寄稿</li><li>・ルールメイキング書籍の出版</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・41件のメディア露出により多くの人々がルールメイキングとの接点を持てるようになり、取り組みに関心を持つきっかけを増やした。</li></ul>
⑦高信頼性組織への波及効果検証	学術的な研究を通して、ルールメイキングが及ぼす高信頼性組織／探究・STEAM等の教育活動への波及効果について、明らかにする。	<ul style="list-style-type: none"><li>・学術的な研究チームの発足</li><li>・追跡調査／効果検証の実施</li><li>・複数校での高信頼性組織尺度の評価検証</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ルールメイキングが高信頼性組織の形成につながることで、教員や学校の変化につながる要因や条件と課題を明らかにした。</li></ul>

# 5. 成果

## ① 外部講師の採用・育成・派遣制度づくり

### 得られた成果：

・外部講師の研修パッケージ（研修実践ガイド・投影資料・台本）が完成し、民間人材／弁護士が生徒のルールメイキング活動支援／教員間の対話促進機会を届けられる状態になった。

### 学校向け 研修案内

**研修コースのご案内**

**ファシリテーター**  
 取り扱うテーマ  
 ・取組の進め方についての互いの認識の共有  
 教員同士が対話が中心の研修です。取組作業を通じて、改めてお互いの考え方を共有する機会を作ること、先方が取組推進しに主体性を発揮するきっかけを作ります。  
 → 詳細はP.

**弁護士**  
 取り扱うテーマ  
 ・法律の観点からみる校則の分類  
 ・校則制定の前提となるルールの性質  
 ・基本的人権と子どもの権利  
 法律の専門家である弁護士からのレクチャーに、教員同士の対話を組み合わせた研修です。関連すべき校則を整理し、生徒と一緒に校則について考えたいための、土台となる知識が得られます。  
 → 詳細はP.

**キャリアカウンセラー**  
 取り扱うテーマ  
 ・ルールメイキングの進め方  
 ・ルールメイキングの成り、全国の実践事例  
 こちらが講師・レクチャーが中心となります。「みんなのルールメイキング」のこれまでの実践・実績や、進め方を紹介します。なお、ルールメイキングの進め方や実践事例はウェブサイトに等でも随時無料公開しています。  
 → 詳細はP.

講師一覧のリンク張る  
 ここから具体的に講師を指名できる  
 ように誘導

### 講師向け 研修実践ガイド

**【1】みんなのルールメイキング 講師ガイド**

この研修ガイドは、ルールメイキングを実践している／実践に向けて準備をしている学校の教員に対して、外部講師が研修を実施する際のガイドと投影資料をまとめたものです。研修で気づく具体的な実践の例、講師が気づき方を教えた実践を掲載しています。

時間	大項目	小項目
05	研修の目的・見聞の最終	
05	グループワークの取組の進め方	① 05 研修の進め方「校則の分類」についてレクチャーする ② 05 研修の進め方「校則の分類」についてレクチャーする ③ 05 研修の進め方「校則の分類」についてレクチャーする ④ 05 研修の進め方「校則の分類」についてレクチャーする
10	校則・ルールについてのレクチャー	・基本的人権の自由と、集団の団結を促進する目的としての「ルール」の必要性 ・ルールの性質（必要性）「集団性」「自覚性」 ・基本的人権の自由と、集団の団結を促進する目的としての「ルール」の必要性
07	ルールメイキングの進め方のレクチャー	
10	ワークの進め方をレクチャーしながら進めながら進める	グループワークの結果を見ながら、もう一度グループで進める
05	クロージング	

研修実践の様子  
 STEAMライブラリー 講師 藤原 先生  
 STEAMライブラリー 講師 藤原 先生  
 STEAMライブラリー 講師 藤原 先生

### 講師向け 資料

**ワーク① 身近なルールについて考えよう**

考えよう  
 もしも、誰もお守りできないスピードで運転することができたら、どのような事故が起こるでしょうか？

**ポイント**  
 ルールは集団の安全を守るため  
 目的を達成するために作られる  
 そのルールに「どんな利益があるか」「やりすぎではないか」を考えよう  
 様々な立場の人の意見を聞いて決めたルールを考えよう

**1 ルールの性質**  
 制約される自由・権利・平等  
 実現する利益・目的  
 個人・各自の自由・権利・平等  
 ● 服装・髪型などの自由  
 ● 放課後の過ごし方の自由  
 その集団・社会での  
 ▲ 安全確保＝先生、生徒の安全  
 ▲ 目的達成＝教育活動

**3 ルールメイキングとは？**  
 Step1 課題設定  
 アワード結果の発表に引いて、私達が学校生活のために、多様な立場の人たち「対話」を通して、自分たちが決めたルールを共有しよう。

### 講師向け 台本

場面	登場人物	台本内容
05:00	講師	「もしも、誰もお守りできないスピードで運転することができたら、どのような事故が起こるでしょうか？」という問いかけで、生徒の想像力を刺激し、安全運転の重要性を伝える。
05:05	生徒	「もしも、誰もお守りできないスピードで運転することができたら、どのような事故が起こるでしょうか？」という問いかけに、生徒は「スピードブレーキが壊れたら、大事故が起きると思います。」と答える。
05:10	講師	「もしも、誰もお守りできないスピードで運転することができたら、どのような事故が起こるでしょうか？」という問いかけに、生徒は「スピードブレーキが壊れたら、大事故が起きると思います。」と答える。

各講師の取り扱うテーマを明示し、学校にあったテーマを選択しやすくします。学校内で研修実施を検討する際の参考資料として活用できます。

講師が研修を実践するにあたり、事前に知っておくべき情報をまとめたガイドです。事前に視聴する動画教材のほか、研修のタイムライン、講師を務める上での注意事項、研修への参加者情報などを記載しています。

講師が研修に使用できるスライド資料を作成しました。どの講師でも一定以上の研修準備をすることができるだけでなく、提供する話題をある程度統一することができます。

講師が研修時に話す内容をまとめた台本です。抑えておくべき内容、伝え方、強調すべき点がわかります。ファシリテートするうえで注意する点なども盛り込むことで、学校現場にそくした研修運営をすることができます。

②

## 誰でも実践できる情報プラットフォーム開発

### 得られた成果：

- 意志ある教員が、ルールメイキング実践に移行したいと考えたときに必要な情報や教材・ガイドを入手することができるようになった。

**プロジェクトの進め方Q&Aデータベース**

●このデータベースの使い方  
この「進め方Q&Aデータベース」では、先進事例校・パートナーから過去に寄せられた疑問・質問に、Q&A形式で回答しています。

●知りたい情報の探し方  
「進め方」を4つのステップに分けてQ&Aとしてまとめています。  
ご自身の学校のステップに合わせて、必要な情報をピックアップすることができます。

●質問したい内容が見つからないとき  
知りたい情報がない場合は、「質問フォーム」から追加質問することが可能です。  
こちらのフォームから、質問を送ると、事務局もしくは実践事例を持つ先生から回答をもらうことができます。

☞ ガラリビュー ☞ ガラリビュー ☞ テーブルビュー フィルター 並び替え Q

<p>(0)プロジェクトの事前準備 校内でプロジェクトの承認をとる</p> <p>Q.ルールメイキングプロジェクトを始めるためには、どのくらい前から準備を始めればよいでしょうか？</p>	<p>(0)プロジェクトの事前準備 校内でプロジェクトの承認をとる</p> <p>Q.ルールメイキングプロジェクトを実施するにあたり、どのように校内承認をとればよいでしょうか？</p>	<p>(0)プロジェクトの事前準備 校内でプロジェクトの承認をとる</p> <p>Q.職員会議に提出する書類には、どのようなことを記載するのがよいでしょうか？</p>	<p>(0)プロジェクトの事前準備 校内でプロジェクトの承認をとる</p> <p>Q.校内で承認を取るにあたり、参考にできる資料などはありますか？</p>	<p>(0)プロジェクトの事前準備 校内でプロジェクトの承認をとる</p> <p>Q.校則見直しに前向きではない先生が多くおり、校内での承認が進みません</p>
<p>(0)プロジェクトの事前準備 校内でプロジェクトの承認をとる</p> <p>Q.見直しに前向きではない先生が多く、すぐにはプロジェクトを始められそうにありませんが、何かできる</p>	<p>(0)プロジェクトの事前準備 教員のチームを立ち上げる</p> <p>Q.プロジェクトの立ち上げにあたり、先生は何名くらい必要でしょうか？</p>	<p>(0)プロジェクトの事前準備 教員のチームを立ち上げる</p> <p>Q.プロジェクトの開始にあたって、コーディネーターは必要でしょうか？採用したい場合は、どうしたら</p>	<p>(0)プロジェクトの事前準備 1年間の見直しをたてる</p> <p>Q.ルールメイキングプロジェクトには、具体的にどのくらい期間がかかりますか？</p>	<p>(0)プロジェクトの事前準備 1年間の見直しをたてる</p> <p>Q.年度内に見直しを実現するには、何月頃から活動を始めればよいでしょうか？</p>

▼実践ガイドとして、プロジェクトの進め方Q&Aデータベースを作成。より実践的な悩みについて回答データベースを作成しました。

同校の石橋校長先生によれば「学校は生徒、先生、保護者、地域などみんなで作るもの」と話し、子どもたちだけでなく、大人も創り手になれる学校を目指し、ルールメイキングを進めていると語ります。

### 【大阪府】泉大津市立小津中学校 生徒の生徒による生徒のための校則



大阪府の泉大津市小津中学校では「PTA会議」「学校運営協議会」の場を利用して、保護者や地域の方々を交えたルールメイキング活動を実施しました。

▼保護者や学校運営協議会を巻き込んだ事例紹介は、ルールメイキングホームページに掲載しました。

# 5. 成果

## ③ ルールメイキングを支える「ナナメの関係」－教員コミュニティ

### 得られた成果：

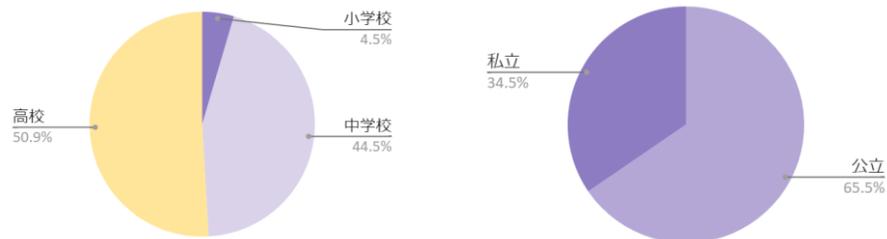
- ・ルールメイキング実践校が192校参加する教員コミュニティまで、拡大した。
- ・先進事例校とパートナーの、パートナー同士の「ナナメの関係」を育むことができ、自発的な学校感交流会が5件生まれた。
- ・生徒同士も学校を越えた交流により、生徒たちの「当たり前」の更新や実践知の交換が行われる状態になった。

### ルールメイキング実践校の実績 ※2023年2月末時点

2023年2月末時点：合計 125校

先進事例校	15
自治体連携 (つくば市、福井県、広島県)	55
パートナー	122
<b>合計</b>	<b>192</b>

### 連携校の内訳



### 教員交流会の参加者

延べ148名

### コミュニティから生まれた、自発的な学校間交流



5件

#### 【その他】

- ・愛媛県立丹原高校×純心女子中学・高等学校 (生徒交流)
- ・泉大津市立小津中学校×吹田市立豊津中学校 (生徒交流)
- ・熊本農業高等学校×安田女子中学高等学校 (教員交流)
- ・大阪夕陽丘学園高等学校×大阪府立吹田東高等学校 (生徒交流)

▲愛媛県立丹原高等学校×純心女子中学・高等学校 (長崎) 交流会の様子

# 5. 成果

④

## ルールメイキングサミットの開催

### 得られた成果：

- ・全国の生徒、教員、有識者などとの対話を通してルールメイキングの新たな可能性「ルールメイキングと社会解決プロセスの親和性」が明らかになった。
- ・ルールメイキングの価値を広く社会に発信する契機となった。

### 実施体制：教員・卒業生による運営

#### ■ 運営主体：事務局スタッフ・学生サポーター・コーディネーター・先進事例校 教員

事務局スタッフのほか、昨年度の中高生メンバー卒業生や、先進事例校の卒業生が学生サポーター(ボランティア)として現場運営に参加しました。さらに、先進事例校の教員がファシリテーターとして活躍するなど、事務局スタッフ以外の多様な立場の人が運営にかかわる初めての機会となりました。そして、23年1月には「関西地域 生徒大会」へと発展し、新しい交流の場が生まれました。

#### ■ 参加校：21校(うち見学4校)

22年度から新たにルールメイキング実践を始めた

##### <関東エリア>

千葉県立姉崎高等学校(千葉)  
栃木県立足利清風高等学校(栃木)  
江戸川学園取手中学校・高等学校(茨城)  
駒場学園高等学校(東京)  
新渡戸文化中学校・高等学校(東京)  
上野学園中学校・高等学校(東京)  
中央大学附属横浜高等学校(東京)  
<九州エリア>  
福岡女子商業高等学校(福岡)  
東明館中学校・高等学校(佐賀)

##### <関西エリア>

泉大津市立小津中学校(大阪)  
大阪夕陽丘学園高等学校(大阪)  
吹田市立豊津中学校(大阪)  
枚方市立楠葉西中学校(大阪)  
桑名市立陵成中学校(三重)  
<東海エリア>  
愛知県立足助高等学校(愛知)  
大垣市立東中学校(岐阜)  
<中四国エリア>  
愛媛県立丹原高等学校(愛媛)

### コンテンツ：多様な立場の有識者との対話・学び合い

#### ■ 主なコンテンツ：

- ・参加校生徒による生徒発表  
参加した17校全てがこれまでの実践と学びをまとめ発表しました。多様な実践アイデアが共有され、学校を横断した生徒の学び合いが実現しました。
- ・有識者(登壇ゲスト)との対話  
生徒発表後に、有識者と生徒が対話し、各校の1年間の実践について深掘りをしました。生徒が新しい気付きを得るとともに、自分らの実践が承認されることによる「エンパワメント」の機能がありました。
- ・参加者による応援投票制度  
審査員が選ぶコンテスト形式ではなく、参加した生徒を含めた全員が相互投票し、代表校を選ぶ「応援投票制度」を採用しました。ロールモデルとなる学校を広く発信することに繋がりました。
- ・有識者(登壇ゲスト)とのブースセッション  
有識者と生徒が少人数で対話する機会として「ブースセッション」を取り入れました。生徒から質問がでやすくなり、より質の高い対話につながりました。
- ・有識者(登壇ゲスト)のインスパイアセッション  
有識者が自身の活動や経験を語りました。社会課題解決やビジネスの視点から、ルールメイキングを推進するヒントを得ることができました。

### 参加者の声

様々な学校がどのような壁にぶつかり、それをどのように乗り越えてきたのか知ることができたからです。また、それに対して有識者の方々がアドバイスや大事にしてほしいことを伝えてくださってたくさんの学びを得ることができました。2日合わせると約10時間という長い時間でしたがあつという間に感じられてしまうほど学ぶことであふれていました。(生徒)

自分では思いつかないアイデアばかりで刺激をもらいました。ルールを変えることは簡単なことではありませんが、全国の他校さんも頑張っているんだという勇気をもらい、これからも頑張っていきたいと思います!!二日間、とても充実した、楽しい時間を過ごすことができました。このサミットに参加できて良かったです!本当にありがとうございました!また参加できるように、これからも頑張ります。(生徒)

# 5. 成果

⑤

## 自治体連携モデル開発 つくば市と連携した全域実施

### 得られた成果：

- ・自治体で一環してルールメイキングを推進するために必要な支援メニューが明らかになった。

### 成果および課題サマリー

#### 【成果】

- ①市内全域でのルールメイキング実践の立ち上げに一定の寄与  
・プレゼンテーションコンテストへ30校/45校が応募
- ②モデルとなる実践がすべての校種で成立  
・小, 中, 義務教育学校それぞれに対話を丁寧に重ねた優良実践が生まれた
- ③校長会プロジェクトチームとの連携によるスムーズな協議  
・ワーキンググループとなる校長会プロジェクトチームの存在により、実施事項の企画・立案がスムーズに行われた

#### 【課題】

- ①学校ごとの状況による意義理解の差  
・ルールに関する問題意識が薄い学校は、取り組む意義を見出しづらい
- ②取り組みの意義周知・浸透の難しさ  
・情報伝達の階層が多いことから、取り組みの意義周知・浸透のハードルが高い（市長→市教委→校長→担当教員→児童・生徒）
- ③知見不足・理念の共有不足による負担感  
・市教委からのトップダウン案件と受け止められ、負担感につながりやすい  
・ルールを作ることが目的化し、かえって指導に難しさを抱える担当教員が見受けられた

### 今後必要となる支援

#### 【教育委員会に対する支援】

- ①取り組みの発展をめざすモデル事例の創出  
・ルールメイキングを校則・ルール見直しだけにとどめず、子ども参加の学校づくり全般に活かすモデル実践の支援
- ②取り組みの意義周知をはかる研修等の継続  
・今年度の実践を発展させ継続している学校の実践を共有し、普及するための取り組み（集合研修等）が今後も望まれる
- ③市内の意欲のある教員同士が学び会える機会の提供  
・今年度の取り組みに意義を感じた教員が他校の事例から学ぶことができる機会を設定

# 5. 成果

## ⑤ 自治体連携モデル開発

### つくば市立 二の宮小学校

これまでの経緯

これまでの経緯	① R4年5～6月 目的・流れの共有	② R4年7月 二の宮小 タブレット5か条	③ R4年8～10月 「5か条」を活用 した発展	④ R4年11月 プレゼンテーション コンテストの活用	R4年12月 冬休みに向けた 意識づけ
	代表委員会の児童が 中心となり検討する ことを確認	PTA 本部役員会・常 任委員会で、取組に ついて説明	使い方の指針となる5 か条を作成し 全校に周知	自分達の取り組みを振 り返り、他校の取組 みから学ぶ	代表委員児童がみず から意識づけを行う

具体的な取組み

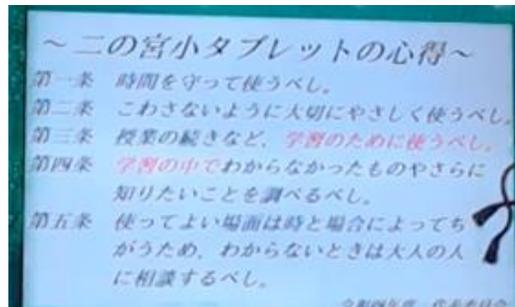
#### ① 目的・流れの共有

ルールメイキングの目的や流れを共有した上で、代表委員児童が各学級で取り組みについて説明。formsを活用したアンケートを実施しながら、各学級でタブレットの使い方について話し合いました。



#### ② 二の宮小タブレットの心得 -5か条- の作成

代表委員会児童でタブレットの使い方の指針となる「5か条」を検討し、全校に周知。各児童が「5か条」をもとに、自分の使い方について考え、目標を立てました。



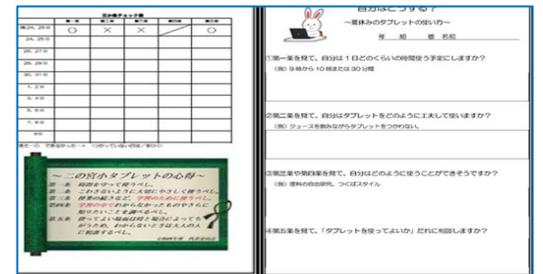
#### ③ 「5か条」を活用した取り組みの発展

夏休み期間中に「5か条」を心掛けて生活することの意識づけ。9月には夏休み中のタブレットの使い方について振り返る場を設定し、取り組みの進捗について保護者にも説明する機会を持ちました。



#### ④ 冬休みに向けた意識づけ

冬休みに向けて、タブレットの使い方について考えるワークシートを代表委員の児童が作成し、全校児童で取り組みます。

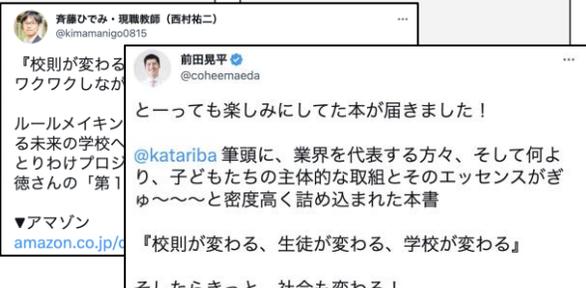


# 5. 成果

## ⑥ 出版・広報・情報発信によるムーブメントづくり

得られた成果：

- ・2022年8月～2023年2月まで合計**41件**メディアに掲載された。
- ・そのうちプレスリリースやメディアリレーションによる広報活動での露出が**24件**あった。
- ・2019年からのプロジェクト成果をまとめた書籍を出版し、献本活動において有識者SNS発信やメディア掲載を獲得した。

2022年8月 5件 (4件)	2022年9月 16件 (12件)	2022年10月 3件 (1件)	2022年11月 8件 (5件)	2022年12月 4件 (2件)	2023年1月 4件 (0件)	2023年2月 1件 (0件)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●朝日新聞</li> <li>●ReseMom</li> <li>●exciteニュース</li> <li>●KDCI ICT Lab</li> <li>●NEWSRELES.SE</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ICT教育ニュース(2件)</li> <li>●EdTechZine</li> <li>●TBSラジオ</li> <li>●読売新聞</li> <li>●fuuma</li> <li>●ReseMom</li> <li>●先端教育オンライン</li> <li>●茨城新聞</li> <li>●教育家庭新聞</li> <li>●西日本新聞</li> <li>●ICT教育ニュース</li> <li>●日本教育新聞 (2件)</li> <li>●教育新聞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●静岡新聞</li> <li>●高校生新聞</li> <li>●ダイヤモンドオンライン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●Forbes Japan</li> <li>●ICTOnline</li> <li>●月刊高校教育</li> <li>●東京新聞</li> <li>●秋田さきがけ新聞</li> <li>●EdTechZine</li> </ul> <p>※ForbesJAPANの記事が yahooニュース・NewsPicks への転載され2件増</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●Forbes Japan</li> <li>●教育新聞</li> <li>●河北新報</li> <li>●ReseMom</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●東京新聞</li> <li>●全国学校図書館協議会</li> <li>●朝日新聞</li> <li>●Web東奥</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●県南新聞</li> </ul>
 <p>▲共同通信によるサミット掲載</p>	 <p>▲書籍出版に伴い有識者への献本によるSNS拡散</p>	 <p>▲Forbes Japan</p>	 <p>▲月刊「高校教育」12月号</p>	 <p>▲教育新聞ZOZOコラボイベント掲載</p>		

## 5. 成果

⑦

### 調査研究によるルールメイキングの効果検証 (1)調査概要

ルールメイキングを実施することで得られる**生徒への教育的効果・教員や学校への波及効果**について、**中長期的に検証していく調査**を行いました。ルールメイキングに取り組んだ生徒がその後どのように成長するのか、ルールメイキングに取り組んでいる学校は活動を継続することでどのように変容していくのかについて、ロングスパンで調査研究を行うことでルールメイキング効果とその要因を明らかにすることを目的とした調査です。

#### リサーチクエスチョン（研究課題）

教員の変化	RQ1	ルールメイキングの活動は、関わった教員にどのような変化をもたらすか？（またその要因とは？）
		考えられる変化の例： 教員間の信頼関係の改善／失敗を許容できる文化の醸成 等
学校の変化	RQ2	ルールメイキングの活動は、学校（全教員・全校生徒等）にどのような変化をもたらすか？（またその要因とは？）
		考えられる変化の例： 生徒の効力感／RM以外の活動への影響（授業・行事） 等

#### 調査対象校

##### ■調査対象校

ルールメイキングの実践を2年以上継続して実施している7校

##### ■学校特徴の内訳

- ・2020年度参加校（1校）・2021年度参加校（6校）
- ・公立（4校）・私立（4校）
- ・中学校（2校）・高等学校（4校）・中高一貫校（1校）

#### 調査方法

##### ①質問紙調査

- (1)対象：対象7校の全校生徒・全教員
- (2)実施時期：2022年12月5日～2023年1月25日
- (3)質問項目：  
【全校生徒】学校風土/関心・参画意欲/ルール認識等に関する全23項目  
【全教員】生徒への信頼/対話的文化/実践の変化等に関する全22項目

##### ②インタビュー調査

- (1)対象：対象7校のルールメイキング担当教員
- (2)実施時期：2022年12月5日～2023年1月10日
- (3)質問項目：担当教員自身の変化・他の教員の変化・全校生徒の変化  
2年目の課題等に関する全8項目

#### 研究推進体制

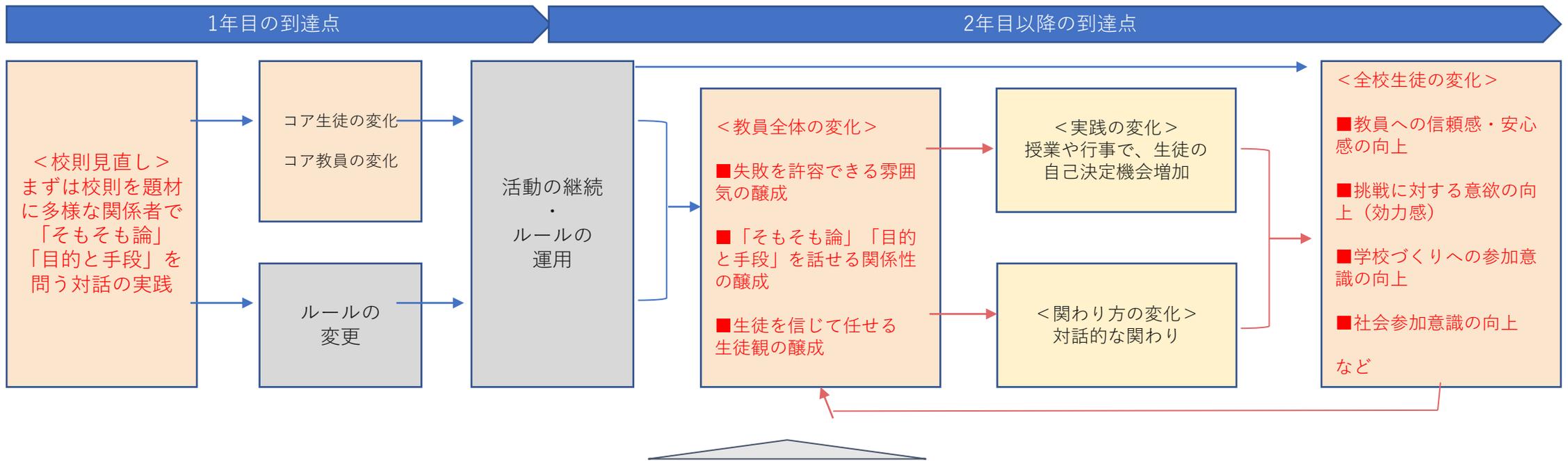
- 研究統括：古田 雄一（筑波大学）・古野香織/山本晃史（NPOカタリバ）
- 定量調査協力：小栗 優貴（愛知教育大学・非常勤講師）
- 定性調査協力：奥村 尚（独立研究者）・近田未貴（NPO法人）

# 5. 成果

⑦

## 調査研究によるルールメイキングの効果検証 (1)調査概要 リサーチクエスチョンの背景にある「学校変化のメカニズム仮説」

ルールメイキングの取り組みの2年目以降は、下記の図で示す通り、「コア生徒・コア教員の変化」からさらに「教員全体の変化」「全校生徒の変化」へと効果が波及していくと考えられる。ただし、「教員全体の変化」「全校生徒の変化」といったより広い範囲で変化が起こるには、ある程度の時間が必要と考えられ、さらに**ルールメイキングに加えて、学校ビジョンや方針、授業改善の取り組みなど複数の実践が要因となるのではないか**という仮説を立てた。1年目の短期的な研究では十分に検証できていないため、追記調査を通じて明らかにすることとした。



- ・既存のビジョン、目標、方向性
- ・魅力化など特殊テーマ

それ以外の文脈での取り組み・学校改善

## 5. 成果

⑦

### 調査研究によるルールメイキングの効果検証 (2)定性調査 結果及び考察

#### 1. 担当教員の変化

##### 担当教員の変化① 「まずは聞く」という意識への変化

ルールメイキングを通じた担当教員の変化として、教員としての考えはあるものの、頭ごなしに否定するのではなく、まずは子どもたちの声に耳を傾け、意見の背景にあるものを探ろうとする意識が醸成されている。ルールメイキングの活動を通じて、これまでであれば「絶対駄目」と拒否していたような内容でも、まずは受け止める姿勢が変わったと語る教員もいた。こういった教員の変化が、後述の「生徒による意見表明の増加」など、徐々に生徒の変化にもつながっていると考えられる。

###### 【インタビューから】

他学年のフロアに行ったりとか、他のクラスに入っちゃ駄目っていうふうなルールがあるので、それもあって他のクラスの子たちと話したいけど学校でも、なかなか話せないからスマホでやり取りしたらい、って…1年前だったらそんな駄目絶対言ってますけど。絶対言っていましたね。笑 ちゃんとその根本というかその理由を聞かなあかんっていうふうには、自分の意識も変わった。…学年の先生に相談して、いやそれはもう昔からというか、こうこうだったみたいな、言われたら、確かにそうですね、そのまま伝えますとか。だけど今は理由聞いた上で、その理由も含めて、学年の先生に相談したりとか、というふうにはちょっと変わったというか、自分の中でも。

##### 担当教員の変化② 生徒と会話するきっかけ、生徒理解

ルールメイキングに関わることで、より生徒を深く知るきっかけになったとの声が見られた。教科担当や担任とは違った立場で生徒と関わることで、生徒に質問を投げかけたり逆に生徒から質問を投げかけられるなど会話の機会が増えることに繋がったことが理由として挙げられる。

###### 【インタビューから】

えっと、僕は今年から入ったんですけど、まあこの学校初めて来て、まあルールがどういうものか、っていうのが分かるきっかけになりましたし、で生徒ができない、まあさっきの流れでスケジュールができないとか、そういうのって、ルールメイキングに限らず、まあ授業とか提出物とかそういうところからも見えるから、生徒を知るきっかけになるし、生徒がやっぱ思ってることを、会話するきっかけになるから、だから生徒理解につながるから、そこで会話する生徒と、やっぱり関係が生まれて、じゃあこういうことはどう？っていうふうになるから、そういう別の意味合いで、まあ生徒を知ることにはなったのかな、っていう風には思います。

## 5. 成果

⑦

### 調査研究によるルールメイキングの効果検証 (2)定性調査 結果及び考察

#### 1. 担当教員の変化

##### 担当教員の変化③ 生徒とのフラットな関係性の模索

一般的に教員が生徒の行動を指導することはあっても、その逆は想像されない。しかしルールメイキングは生徒-教師間の指導する/されるという関係から、よりフラットな関係性へと変化させることが示唆される。ある学校では、これまでよりも生徒が教員への相談をしやすくなったり、生徒から教員による指導方法の問い直しという行為が見られるようになった。

###### 【インタビューから】

良くも悪くも、なんていうかな。生徒と職員のこの位置関係みたいなのがだいぶこう、段差なくなってきた感じ、はしますね。…まあ生徒指導っていう立場で言うと、問題が起きたときでも、結構報告がすぐしやすいとかね。家のことで困ったことがあったときにも、先生すぐ相談しやすいみたいな。仲良い関係ではないんだけど、そういう関係って言うんですかね。これって駄目だと思うんですけどみたいな。そういうのも話やすい雰囲気っていうのかな、っていうのも感じますね。

##### 担当教員の変化④ 担当授業の内容・手法・姿勢の変化

ルールメイキング導入以前は授業空間を教える場として捉え、教員がリードしていたのに対し、導入以後は生徒へ聞く、生徒からの発言を待つという姿勢が生まれていることが分かった。ルールメイキングの活動を通じて生徒主体という考え方や、生徒を学校空間において平等な存在として尊重するという意識が芽生えたことが影響していると考えられる。また社会科教員の変化として、授業と授業外の学びを往還させる重要性に気がついたという変化

###### 【インタビューから】

授業はすっげえ変わりました。自分は。まず自分が喋らなくなりましたね。ずーと今みたいな感じでずーっと喋ってたんですけど。授業中。でも聞くことが増えましたね。端的にいうと。最初僕の授業だと思ってたんですけど、やっぱみんなの授業だなというか。みんなで育っていかないとすごく思うんで最近。だからこう。年齢の違いや立場の違いはありますが、学びの空間だったり、こういう一つの学校の教室という場所にいるんだったらお互いが持っている権利があって。学ぶ権利と学ばせなきゃいけない義務があるのかな。仮に。うまく言葉にできないですけど。まあまあお互い対等じゃないですけど、やっぱ主権者というか、学びの主体にならなきゃいけないのは生徒たち一人ひとりになるべく均等にそういう時間を設けるにはどうしたらいいかなを考えると何か変わってきましたね。

⑦

## 調査研究によるルールメイキングの効果検証 (2)定性調査 結果及び考察

### 2. 学校全体の変化

#### 学校全体の変化① 校則改定後に醸成される生徒への信頼感

実際に校則の改定を行った学校では、生徒が改定後のルールを理解し、自分で判断し行動する姿を見て、教員の生徒への信頼感が増していた。主体的に考え、行動することができる生徒というまなざしへと変化したことが、②「生徒を信じて任せてみる取り組みの広がり」にも繋がっていると考えられる。

##### 【インタビューから】

学校が変わってきたところという、今回通学靴を、色の指定なしにしたんですよ。で、体育の時間とかグラウンドでやっている、通学靴でみんな体育とかやっている、どんなもんかなっていうふうに見てると、黒が多かったり、白でちょっとラインが入ってるやつだったりっていうふうで。おおこれか！みたいな、本当なんか、驚くような色の靴を履いてきている子はいないんですよ。何かその辺りも、説明してないんですよ、色の指定なしってところまでしか言っていないんだけど、この靴を見ると理念少し頭の中片隅に残ってくれてるかなっていうのを思ったりします。…一人一人には確認してないですけど、頭の中に入ってるのかなっていうところは、思います僕は。

#### 学校全体の変化②

#### 「生徒を信じて任せてみる」取り組みの広がり

教員は「生徒を信じて任せてみる」、生徒は任せられたことで主体的に活動する、という循環を通して、学校全体へ「生徒を信じて任せてみる」取り組みが広がる様子が見られた。こうした循環が回るためには、まず教員から行動する必要があるが、生徒が本当に活動できるのかが教員側の不安として語られていた。しかし教員はルールメイキングによって子どもの活動の様子を見ることで、不安が少なくなり生徒に任せやすくなると思われる。

##### 【インタビューから】

体育祭がこの前12月にやったんですけど、やっぱり運営も委員会の生徒がやって、競技内容も生徒会中心に意見集めて、教員に提出して、その競技をやるみたいな形でやりまして。やっぱりいままでだったらそんなことありえなかった。来年はさらにそうやって行事は生徒発案で増やす、その球技大会とは別に増やそうみたいな形になったりとか…あとは生徒のポロシャツ、夏服のポロシャツですね、生徒から前から欲しいって声あがってたんですけど、先生から、教員側からもそれやってみるかみたいな形で、来年それをちょっと導入しようかみたいな、になりまして。そのデザインとかも、先生たちのほうから生徒に意見を聞きたいみたいな感じで、生徒指導が提案してくれまして、まあ生徒の意見を聞こうっていう雰囲気はやっぱりなかったんで、やっぱり行事とかそういった、学校の生徒指導の在り方も含めて変わってきてるなっていうのは思いました。

## 5. 成果

⑦

### 調査研究によるルールメイキングの効果検証 (2)定性調査 結果及び考察

## 2. 学校全体の変化

### 学校全体の変化③

#### 教職員間のインフォーマルな場での意見表明の増加

ルールメイキングの実践が後押しとなり、担当教員以外の教員から、校則に限らずさまざまな場面で意見表明が行われる様子が見られた。例えば、最初は立ち話のなかでルールメイキングで取り組んでいる内容についての意見が寄せられ、次第にフォーマルな場（職員会議）での意見表明につながった例も存在する。インフォーマルな場での教員の意見表明を契機に、これまで学校で当たり前とされてきたルールや習慣についてその都度検討の場が持たれたり、実際にルール変更が行われる場合もあった。ルールメイキングの取り組みにより、生徒だけでなく、教員にとっても意見表明がしやすい環境へと変わってきている兆しが見える。

【インタビューから】

最近ある先生が、こういうことも見直していかなくちゃいけないんじゃない？って言ってくれたんですよ。うん、なので、え！と思って、去年駄目だったのに、今年はそういうのも見直していくべきだ、見直していかないと、ちょっともう恥ずかしいんじゃないみたいな。委員会ね、もうそうやってルールメイキングをずっとやってるわけだし、えっと委員会の子たちも一生懸命頑張っているのに、何でそういうところが変わっていかないんだみたいなことを言われたんですよ。…その先生も、何て言うんですか、勇気を持ってとか、意を決してとか、公の場で言いたいって言ってくれたんですよ。

### 学校全体の変化④

#### 教職員間の会議（フォーマルな場）の雰囲気の変化

職員会議の場が民主的な空間として開かれるという変化が見られた。例えば従来は一方的な報告の場となっていた職員会議において、以前からやり方に違和感を持っていた教員達が議論の場とするような動きを見せた学校があった。また、決議の際に多数決へ疑問を唱えたところ、周囲の教員がその意見に共感を示したという事例も存在する。以上のことからルールメイキングが重視している対話や民主主義的な視点が、担当教員以外の教員にも影響を与え、職員会議の場自体を変革する可能性を持っていることが示唆【インタビューから】

会議のやり方が変わりましたね。うち会議が会議じゃなくて、なんかこう報告だったり、協議と言っただけ協議はしないんですけど、だからプリント一枚配ればいいやんって当初思ってたんですけど、ですけどそういう意識を持ってらっしゃった方々が、…やっぱ民主的ってこういうことかな、違うよねとか、ワンマンじゃないですけど、そういうやり方だけど、しょうがないよね、と思っていた方々がなるほどこういうやり方があるのねっていう。多分方法論的にはご存じだったと思うんですけど、ああやって良いんだっていう勇気が出たんじゃないかなって勝手に思ってます。勇気が出たというよりか…俺もやっていいじゃんみたいな、そういう感じですね。

## 5. 成果 -学術的検証の調査概要

⑦

### 調査研究によるルールメイキングの効果検証 (2)定性調査 結果及び考察

## 2. 学校全体の変化

### 学校全体の変化⑤

#### そもそもに立ち戻る意識の醸成・業務改善への展開

ルールメイキングを通じて、これまで学校の中で当たり前に行われてきたことが本当に必要かどうか検討し、そもそもに立ち戻る意識が醸成されてきている。新たに検討論点となっている事項は、例えば部活動の全員加入や、自動車教習所の許可願、アルバイトの可否、進路指導の方法に至るまで様々である。この変化が特に強く見られるのは教員組織内であるが、ルールメイキングで校則・ルールを変えたことをきっかけに、教員間での対話や意見表明の土壌が生まれたことも後押しとなり、本質に立ち戻る姿勢が生まれていると考えられる。こういった意識の醸成は、校長の働きかけなども後押ししており、学校の働き方改革や業務改善などにも繋がる可能性を持っている。

#### 【インタビューから】

去年までは当たり前のようにやってたけど、実際これって絶対やる必要あるのかなとか。そうそう子供に伝える内容についても、ここは、逆にここは子供には絶対伝えてあげなあかんやろうとか、そういうふうな、なんか本当これまでに縛られずに1個1個考えるっていうのは、学年会を聞いていても感じるところとかあったりとか、日常の会話とかでも感じたりしますね。…どういう内容だったかな。んーと、それこそなんだろう。なんか進路、まさに進路のこととかで。

### 学校全体の変化⑥

#### 学校の特色としての「ルールメイキング」

校則見直しの取り組みをきっかけに、学校の特色としてルールメイキングを位置づけ、さらに生徒主体のプロジェクト・学校づくりを推進していこうとする動きが見られた。その背景には、学校が変わらなければいけないという管理職・教員の危機意識も存在する。学校特色として位置づけることで、プロジェクトをより発展させていき、生徒の声を取り入れながら学校により良い変化を生み出そうとしていた。現在、どのように学校の特色としてルールメイキングを習慣化・制度化できるのか、試行錯誤を重ねられ

【インタビューから】  
学校変えてかなきゃいけないみたいなことを今年すごい言ってるんですよ。そのなかで、結構やっぱこの校則見直しを肯定的に解釈して、すごい位置づけてるんですよ。やっぱこういう動きもあるんでみたいな。もっとこういう活動を、地域でもボランティアとかそういう方向に広げていきましょうみたいな語りをしてきてるので、まさに去年今年の校則見直しがこの学校の特色みたいな形でいまちょっと、徐々に校長からの話によって先生たちに伝わってきてるところあると思うので、それがたぶん今年の体育祭の生徒の提案とかそういったところにつながってるのもあるので。たぶん学校の風土とか特色とかになっくんじゃないのかなとは思いますが。生徒主体で何かプロジェクトみたいなのをやってみたいな。

### 2. 学校全体の変化

#### 学校全体の変化⑦

#### 地域社会・保護者・他校からのまなざしの変化

ルールメイキングによって地域社会や保護者が学校運営に参加する回路を構築することができる。また、地域社会や保護者は学校運営に参加することで生徒の教育に関わる当事者としての意識を持てるようになることが期待される。さらにある高校では、市内の中学校からの見られ方が変わったこと、高校入試の倍率が上がったことが見られた。ルールメイキングによって地域社会や保護者、他校からのまなざしが変わり、その効果が学校に還元される循環が【イチョビユ-から】

・子供たちが自分たちで自分たちのルールを変えていくことで自信をつけたように、保護者に、今度、学校のルール、特に制服のことを中心にしてただけれども、それを考えてもらうっていうことで、自分、私達の意見を聞いてもらえるのっていうか、みんなが作ってるんですよっていうところで、何か学校を作っていく一員なんだっていうか、学校、自分自分たちの子なんだ自分たちの学校なんだっていう意識が少しずつこれまで広げていく段階ですけど、まだ参加している方が限られているので。…PTAもその何か、役をやらされるみたいな、そういうのがあるんだけど。今回制服フォーラムやるよって言うと、そこに興味のある人とか、は自分で来るんじゃないですか。年間通して何か役をやらなとか言うと、それはやっぱり手間かかるしってんだけど、でもこの日のこの会って言うのだったら、何か集まりやすかったり、興味のある人は来てくれるので。

・中学校の先生がうちの学校にいらっしゃったときに、やっぱりここはすごい校則厳しくて悪いこうなんか更生させるような学校だっていうふうなイメージがあったらしいんですけど、テレビとかの報道で見て、やっぱりすごくいい学校に変わったんだねみたいな、てことを学校の生徒たちに言ってくれたみたいで。その影響も分かんないですけど、今年倍率が上がりまして、志望の。なんかその意味で地域に影響あったりしてるのかなと思います。

## 5. 成果

⑦

### 調査研究によるルールメイキングの効果検証 (2)定性調査 結果及び考察

## 3. 全校生徒の変化

### 全校生徒の変化①

#### 生徒から教員に対する意見表明の増加

全校生徒においては、校則やルール以外の場面においても、生徒から教員に対して意見を表明する機会が増えている。生徒の意見は、必ずしもまとまったものではなく「ちょっとした違和感」として表出するケースも多々ある。例えば、全体で強く指導される場面において、そこまで強い言葉で指導をする必要はあったのか、個別に指導すればよかったのではないかなど、教員の指導方法について生徒が問いかける事例なども存在した。またスマホの持ち込みなどの意見が対立しやすいテーマにおいても、生徒と教員間での関係性が構築されてきたからこそ、これまでよりも互いに意見を伝え合いやすくなったと考えられる。

【インタビューから】

こっちの方がいいと思うんですけど、みたいな話とか。先生のこれちょっと違うと思うんですけどみたいな。…なんかちょっと違うんじゃないのっていうところを、今までは心に留めて終わっていたところが、声を出すようになったっていうのはこういう活動の成果と言っていいかあれですけど、繋がってるところあると思いますね。…なんとなく、その校則じゃなくて自分たちの教室を作るのは自分たちじゃないけど、学校を作るのは自分たちみたいな、ちょっとそこでおかしなこととか、ちょっと違うんじゃないのっていうときには、声を上げるみたいなね。そういう動き出しができるようになってきた子が増えてきたというか。

### 全校生徒の変化②

#### 全校生徒への「効力感」の波及

また生徒主体の行事運営、全校クラス会議などの取り組みも後押しして「自分たちの意見を聞いてもらえる」という感覚が生まれ、自分も学校づくりに参加したいという自己効力感や参加意識が生徒全体に波及している様子も見られる。こういった効力感の高まりが、さらに居心地のよい学校にするために、生徒たちの主体的な行事運営や校内清掃などの形で、実際の行動に現れているシーンもあった。

【インタビューから】

結構自分勝手な学年だったのが、みんなで楽しくしようとか、みんなでやろうっていうような空気感が、3年生になって強く出て。最高学年になって。だからその、子どもらの、が、居心地がすごくいいっていうのもあるとすごく思うんですけど、なんか、否定的に考える子が少なくなったというか。…1年生のときはずっと壁…壁というか、教員は敵、みたいな、なんか腹割って話されへんような感覚はあったんですけど、今全然そんなことなくて。先生も一緒に、えっと、居心地のいい空気感を作れるというか。なんか、子どもらがそこに安心して過ごせるっていうところは3年生、あるかもしれないですね。なので、もっとこうやっていきたいとか、もっと自分らはこうやって楽しめたんちゃうんかなとか、前向きに考えれる意見は出たんちゃうんかなと思うんですけど。

### 4. プロジェクト2年目の課題

#### プロジェクト2年目の課題① コアメンバーでの活動継続性の課題

2年目の課題としては、まずコアメンバーでの活動継続の難しさが挙げられていた。コア生徒の入れ替えにより「1年目を知らないメンバー」が活動の中心となり、これまでの思いやノウハウの引継ぎに難しさを抱える学校も出てきている。これはコア生徒だけでなく、コア教員の入れ替えの場面でも同様の課題が発生している。またプロジェクトを継続することで、学校や校則に関する満足度が高まり、校則改定への熱量が下がったり、課題設定に困難を抱えるケースも存在した。

##### 【インタビューから】

やっぱり最初はすごく校則に対する不満っていうのはまあ率直にたまってたところあると思うんですけど、一番変えたかった校則の部分っていうのを1年目に結構変えましたので。…1年目の時は9つ候補が出て、その中のまあより重要性だとか、実現性を含めて高いものっていうところを3つ取捨したわけですけど、そこに残ってた6つの中のものっていくつかは今年度のテーマになってたりもする…ので、そういう意味では若干、いい意味で校則に対する満足度が上がると、変えていこうっていう熱量が下がるみたいな。そういったところもありつつかなあということで、はい、その辺がちょっと苦労点としてあります。

#### プロジェクト2年目の課題② 生徒全体の意識変化の困難性

コア生徒以外の生徒の当事者意識の醸成が難しいという意見が課題が見られた。上記はコア生徒が企画したイベントへの参加率の低さ、変わる方法はあるにも関わらず校則が変わらなかったことへ不満が挙がっている点などから窺える。コア生徒はルールの変革の「過程」を体験しそこからの学びを得ているのに対し、周辺の生徒には十分に活動の内容が伝わっておらず「結果」としてルールメイキングを捉えていると言った違いが原因の一つとして指摘することができる。またそもそもルールに関心を示しておらず、破ってしまえば良いもの、変わっても変わらなくてもどちらでも良いと言った意見も見られ、学校をよくしたいという意識自体をいかに育むかということも課題の一つである。

##### 【インタビューから】

変わればラッキーやし…変わらなくても、別に、はいはい、みたいな感じの生徒ら多くって…変えるっていうチャンスはあるのに、なんで変わらへんねん、みたいな。あの、ルールメイキングに携わってない子らは。(略)なんで校則変える変えるって言うてるのに、なんか、全然変わらんやん、って。こんだけルールメイキングの調査とかでも…変えろって意見多いのに、なんですぐ変わらへんのや、みたいな感覚は絶対あるかなって思ってますね。

## 5. 成果

⑦

### 調査研究によるルールメイキングの効果検証 (2)定性調査 結果及び考察

## 4. プロジェクト2年目の課題

### プロジェクト2年目の課題③ 教員全体の意識変化・積極的な参加の難しさ

複数の実証校教員から、管理職やコアとなる教員がけん引していく重要性は語られた。しかし、教員全体の意識の変化や行動を生み出すためには、コア教員だけでなく、いかにそれ以外の周囲の教員をルールメイキングに巻き込んでいくかが課題となる。またルールメイキングに理解は示すが、実際の行動や生徒への指導として実践することは難しい場合があることも考慮すれば、どのように根本的な意識変革が可能であるのかを検討する必要がある。

#### 【インタビューから】

取り組み自体は評価するけど、自分がそれに関わりたい、ではない。つまり、そういう取り組み、あ、うちの学校がっていうんじゃなくて、そういうことを生徒たちが考えれるっていう場所は、たしかにあっても良いよねと。だけど、それをうちの生徒がやるってことについてとか、それを自分が関わるってことについては、肯定的ではないっていう。否定的とは言っていないです、肯定的ではないっていう、感じはあるんじゃないかっていうのと…そういう活動いいよね、って言ったり、例えば話したりはするけど、他との言動の不一致がめっちゃあるっていう意味ですけど。(略)その先生の中で、不一致が起きてるから、活動自体は良い、良いと思ってるとは言うけど、本質的には良いと別に思ってるわけじゃないっていうところは、すごく感じます。

### プロジェクト2年目の課題④ 学校だけでなく、周囲も一緒に変わる必要性

また学校の都合だけではなかなか状況を変えることができないという難しさも存在する。ルール改定の方向性によっては、保護者が責任・判断する範囲が広がる場合もあり、今後理解の輪を広げられるか不安を抱える教員の声もあった。また特に公立校においては、さまざまな側面において近隣地域の学校とも足並みをそろえる必要があり、特定の学校だけが変わるのが難しい場面も存在する。保護者や地域全体も巻き込みながら、慎重に取り組みを進める必要性についても語られていた。

#### 【インタビューから】

校長の意識だったり、教育委員会の意識だったり、なんだろうな。まだやっぱり古臭い校長の意識を持っている人たちもいる。昔ながらの調和を大事にする。現職の校長会でもまだ何かそんな意識が流れているようなところも、その辺かな。…結局制服も、この春に間に合わなかったのは、市内の校長、市内の学校をある程度揃えていくことが必要だろうみたいところで…うんだからその辺の難しさですね。別に市内で合わせる必要ないのにね。…どっかの学校だけをこのジェンダーレスなり多様な、多様性に考慮した制服を入れてくっていう、学ランセラー服に新たな服を加えるっていう改正をするっていうことを、ある学校だけがやるっていうのはどうかっていう。…なかなか難しい。そういうところで壁は。

### 4. プロジェクト2年目の課題

#### プロジェクト2年目の課題⑤ 指導観の「ゆらぎ」という課題

校則が見直されるようになることで、「校則だから」を理由とした生徒指導ができなくなる。しかし学校現場では校則を明確な基準としてきたこともあり、校則の見直しによって生徒指導が「なানাあになってきている」という語りも得られた。特にある教員が「生徒の主体性という隠れ蓑」と表現したように、校則を生徒主体で見直すことは、教員による生徒指導を行わない理由ともなり得る。しかし、校則を見直すからこそ、何をどこまで教員が指導するのかが問われているとも解釈できる。このとき、教員はもちろん、教育研究者や政策立案者、保護者などあらゆる関係者が「生徒を指導する」ということの意味や必要性、その具体的なあり方についても考える必要がある。

今までだったら、たとえばですけどゾーブロック、はい、だめです。なぜなら校則ですから、が通用しなくなってきたっていう多分そういう実感があるんだと思います。…よくも悪くも線をスパって切ったものが、なんかなアナアになってきていることが多くて…なんていうの、生徒の主体性という隠れ蓑を使って指導が怠惰になってる。…僕はこれいいことだと思ってるんです。やっぱり自分ごと化されてないというか自分の学校の校則だったり、自分の生徒に対しての指導が自分の責任で腹括って指導しているというか…学校が決めたからとか校則で決まっているからっていうロジックで生徒の声を潰してきた例っていくらでもあると思いますし、今現在でもあると思うんですよね。そういう権威主義的な武器を使わずして、じゃあどうやって生徒を指導するって言うか…じゃあそういうのをとっばらちゃった生徒の指導って何なのってことだと思ってるんです。僕は、だから成長させられるかどうかだし、自分も成長できるかどうかだし、なんか自分をもっと成長させなきゃだめだとか、それが学びへの意欲というのが学校という現場が一番だと思うんですけど、やっぱり人として成長しなきゃいけないとか、やっぱり社会的に生きてこういうこと大事だよっていかに生徒に実感させるかってことだと思ってるんです。説得力を持って。

## 5. 成果

⑦

### 調査研究によるルールメイキングの効果検証 (3)定量調査 結果及び考察

#### 教員への質問紙から ①プロジェクト開始前からプロジェクト2年目終盤にかけての変化

2021年度実証事業校（6校）の教員へのアンケートについて、実証事業開始前と、2022年度の結果（2022年12月～2023年1月実施）を比較したところ、プロジェクト開始前とプロジェクト2年目終盤では、「この学校の校則は適切だと思う」「この学校のルールは適切だと思う」「この学校のほとんどの教員は、変化に対して前向きである」について、肯定的な回答（そう思う・まあそう思う）をする割合が増加している。ルールメイキングの活動が、校則やルールに対する教員の納得感や、学校をより良く変えていく風土の醸成に寄与していることが読み取れる。

【註】※小数点第二位を四捨五入

※安田女子中学高等学校のデータを除く

※%表記は、「そう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」「わからない」「無回答」の合計人数を100%として、算出したものである。

項目：  
この学校の校則は適切だと思う。

	そう思う	まあそう思う
第1回目	7.5%	47.7%
第3回目	14.6%	49.4%

項目：  
この学校のルールは適切だと思う。

	そう思う	まあそう思う
第1回目	7.5%	50.0%
第3回目	10.8%	55.1%

項目：  
この学校のほとんどの教員は、  
変化に対して前向きである。

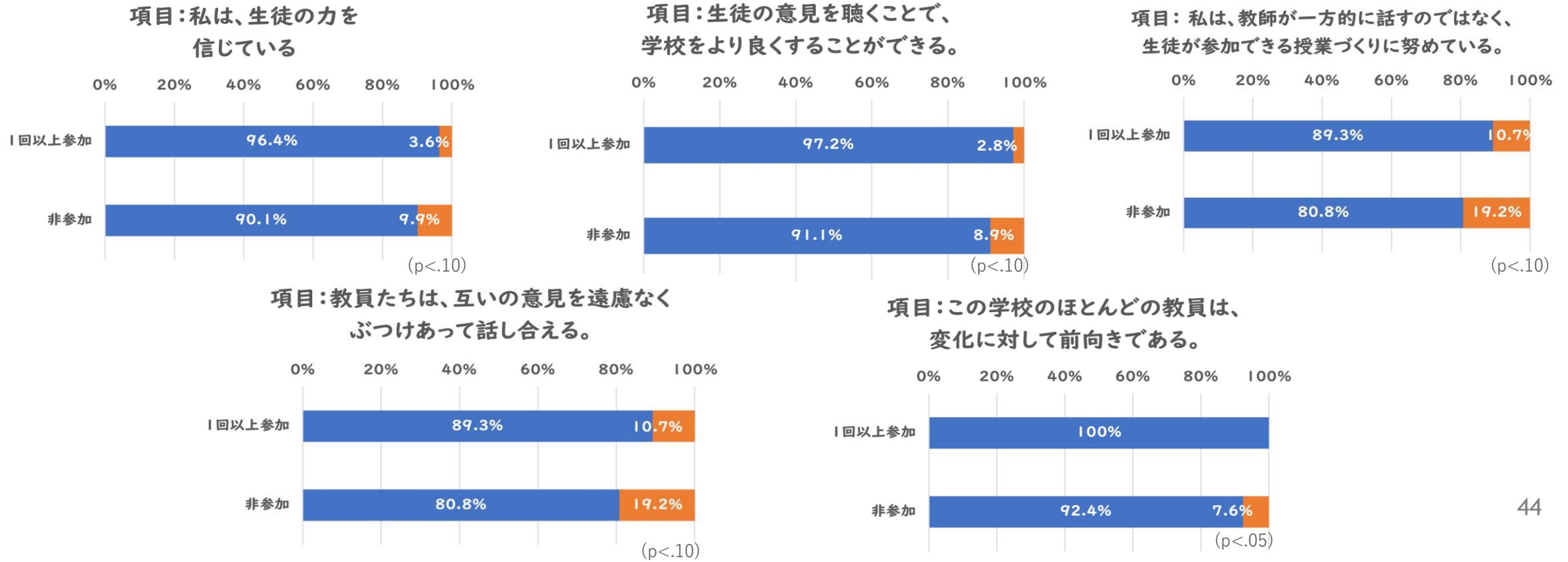
	そう思う	まあそう思う
第1回目	5.1%	32.7%
第3回目	12.0%	32.9%

## 5. 成果

### 教員への質問紙から ②ルールメイキングへの参加回数による比較

ルールメイキングに関連する活動に1回以上参加した教員は、そうではない教員に比べて、下記に示す項目についての肯定的回答の割合が、（統計的にも一定程度有意に）高かった。ルールメイキングの活動に関わる教員は、生徒に対する期待も高く、そのことは自身の授業でも生徒の参加を意識する傾向にも反映されているといえる。あわせて、教員間の関係に対して前向きな認識をもつ傾向がみられる。（因果関係を断定できるわけではないが）ルールメイキングの活動への参加経験が、教員の生徒観や授業観、教員関係の認識と関係していることがうかがえる。

【註】※青色は、項目に対する肯定的回答（そう思う+まあそう思うの合計）を示し、オレンジ色は、項目に関する否定的回答（あまりそう思わない+そう思わない）を示す。  
※パーセント表示は、小数点第2位を四捨五入している。



## 5. 成果

### 生徒への質問紙から ①プロジェクト開始前からプロジェクト2年目終盤にかけての変化

実証事業開始前（第1回）、実証事業1年度目の終期（第2回）、その後の時期（2022年12月～2023年1月）（第3回）の3時点で行った生徒へのアンケート結果を比較した。年度をまたいでいるため対象となる生徒集団が異なる点に留意が必要であるものの、「生徒が協力すると、この学校に良い変化が起こる」「この学校の校則は適切だと思う」「この学校のルールは適切だと思う」「自分の意見には価値があると思う」について、肯定的な回答の割合が増加傾向にある（特に「生徒が協力すると、この学校に良い変化が起こる」は、回数を増すごとに増加している）。大幅な伸びではないものの、ルールメイキングを実施した学校で、生徒の校則・ルールに対する前向きな認識が徐々に生まれ、また生徒が自分たちの意見や参加に価値を感じ、学校をより良く変えていくことができるという感覚が少しずつ広がった。

【註】※%表記は、実証事業実施時期が他の学校より1年早かったため、第2回から第3回の期間が他校よりも空いている。

※%表記は、「そう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」「わからない」の合計人数を100%として、算出したものである。

項目：この学校のルールは適切だと思う。

	そう思う	まあそう思う
第1回目	15.4%	41.5%
第2回目	16.7%	45.7%
第3回目	16.5%	45.5%

項目：この学校の校則は適切だと思う。

	そう思う	まあそう思う
第1回目	12.0%	36.2%
第2回目	15.3%	43.2%
第3回目	13.5%	42.2%

項目：生徒が協力すると、この学校に良い変化が起こる。

	そう思う	まあそう思う
第1回目	30.1%	32.2%
第2回目	34.3%	39.3%
第3回目	36.2%	41.1%

項目：自分の意見には価値があると思う。

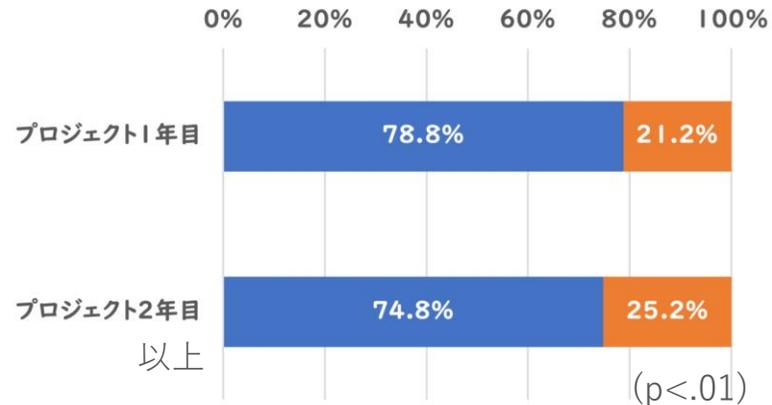
	そう思う	まあそう思う
第1回目	16.2%	28.9%
第2回目	14.7%	30.7%
第3回目	19.2%	31.9%

## 5. 成果

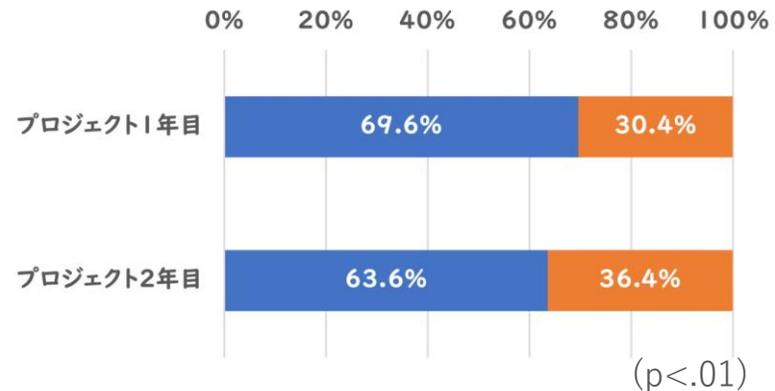
### 生徒への質問紙から ②「学年間の比較（プロジェクト経験年数による比較）」

2022年度に実施した生徒アンケートについて、ルールメイキングの活動が2年目以上である学年（例えば高校であれば高校2年生以上など）と、まだ1年目である学年（高校であれば高校1年生など）とで比較をしたところ、学校への愛着、ルールの適切さ、先生が意見を聴いてくれるという感覚について、肯定的な回答の割合が有意に低下した。仮説的に考えられる理由としては、学年が上がるにつれてこうした感覚が相対的に低下しやすいものの、ルールメイキングの活動がそれを相克するだけの効果までは持ちえなかったということが考えられる。

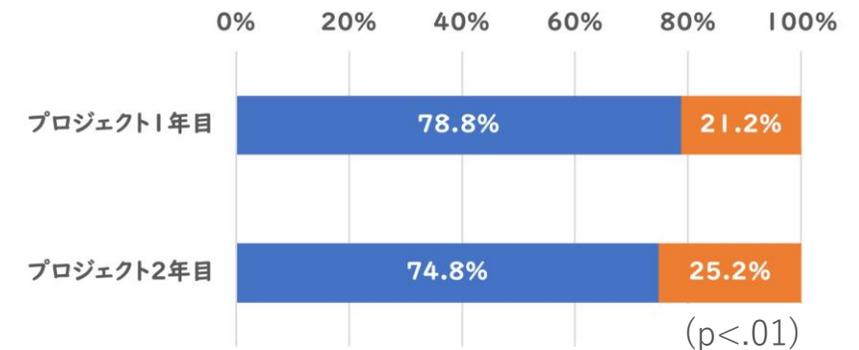
この学校のことが好きだ



この学校のルールは適切だと思う。



この学校の先生は、生徒の意見を聴いてくれる。



## 5. 成果

### 生徒への質問紙から ③学校間の比較

アンケートを実施した実証事業校間で、生徒アンケートの回答傾向を比較してみたところ、下記のように、学校への認識も社会への認識も相対的に高い学校、学校への認識が相対的に高い学校、社会への認識が相対的に高い学校、どちらも相対的に低い学校と、学校によって生徒の数値の傾向も多様になっており、様々な実施条件や実施方法によって生徒への効果も異なりうることが示唆される。例えば、学校への認識・社会への認識がともに高い数値となっていた学校は、ルールメイキングの活動以外に授業や各種教育活動でも、ルールメイキングの活動と関連付けた内容を扱ったり、政治・社会参加を促す活動を行ったりしており、そうした学校全体での取り組みの重要性が推察される。

参加校	他の参加校の回答と比較して 有意 ( $p<.01$ ) だと認められた項目数 (学校への認識に関する項目)	他の参加校の回答と比較して 有意 ( $p<.01$ ) だと認められた項目数 (社会への認識に関する項目)
A校	△ 4問    ▽ 2問	△ 6問    ▽ 0問
B校	△ 4問    ▽ 0問	△ 1問    ▽ 2問
C校	△ 1問    ▽ 6問	△ 0問    ▽ 3問
D校	△ 4問    ▽ 0問	△ 0問    ▽ 8問
E校	△ 0問    ▽ 6問	△ 5問    ▽ 1問
F校	△ 6問    ▽ 1問	△ 4問    ▽ 2問
G校	△ 1問    ▽ 5問	△ 0問    ▽ 3問

△肯定的回答の割合が有意( $p<.01$ )に多かった。    ▽肯定的回答の割合が有意( $p<.01$ )に少なかった。

## 5. 成果

⑦

### 調査研究によるルールメイキングの効果検証 (4)小括：調査結果からみえる教員や学校の変化

#### ①担当教員の変化

プロジェクトに参加した教員は、さまざまな場面で生徒の声に耳を傾けようとする意識が醸成されている。これまでは頭ごなしに否定してきたような意見もまずは聞き入れてみるという語りが見られたり、生徒-教員間の関係性をフラットに組み替えることで、生徒にとって話しやすい・相談しやすい対象になろうと務める姿が見受けられた。さらに、もともと教員主導となりがちであった「授業」の場面においても、「教師が一方的に話すのではなく、生徒が参加できる授業づくりに努める」など、ルールメイキングを通じて授業の手法・内容・姿勢にも変化が生まれていた。

#### ②学校全体の変化 - 教員全体について

教員全体として校則・ルールが適切であるという意識が高まったことはもちろん、プロジェクトを通じて生徒への信頼感が醸成され、校則以外の学校行事や服装の見直し等の場面においても、実際に生徒たちに任せる取り組みが広がってきている。プロジェクトに関与した教員が、より「私は、生徒の力を信じている」「生徒の意見を聴くことで、学校をより良くすることができる」と感じているという結果も、こういった生徒への信頼醸成が広がりつつあることを示している。また、プロジェクト開始時から2年目終盤の変化として、「この学校のほとんどの教員は、変化に対して前向きである」の項目の増加に見るように、教員間においても対話的風土が醸成され、フォーマル（職員会議等）／インフォーマル（一対一での会話等）の場での意見表明が活発に行われるようになったことは注目に値する。このように教職員間での対話を繰り返すことで、部活動やアルバイトの許可制、制服、進路指導など、これまで学校として当たり前に行ってきた指導や業務についても、「そもそも」に立ち戻って再検討する動きが高まり、実際に見直しに繋がったケースも存在した。

#### ③学校全体の変化 - 全校生徒について

全校生徒の変化として、「生徒が協力すると、この学校に良い変化が起こる」「自分の意見には価値があると思う」といった自己効力感や参加意識が高まっている。コア以外の生徒からも、校則やそれ以外の場面において、新たな提案や主体的な活動が生まれつつある。さらに、このようなポジティブな側面だけでなく、教員の生徒指導のあり方等に対して疑問を持ったり、生徒から教員に対して「こういった指導はやめてほしい」といった直接的・間接的に意見表明も行われるようになっていた。こういった変化の背景には、プロジェクトを通じた生徒-教員間の信頼関係の醸成や関係性が見直しが関係しているものと考えられる。

## 5. 成果

⑦

### 調査研究によるルールメイキングの効果検証 (5)総合考察

#### 教員や学校の変化につながる要因や条件

ここまでみてきたのは、主に対象校全体の傾向であったが、他方で学校間での違いが少なからずあったことにも目を向けておきたい。こうした学校ごとの違いや多様性がなぜ／どのように生まれるのかを考察するうえでは、「学校変化のメカニズム仮説」でも示したように、

ルールメイキングの取り組み単体だけでなく、他の活動や取り組みを支える条件などとの関係で捉えていくことが大切だと考えられる。

以下に、それぞれの学校での取り組みや環境条件の違いに注目する中でみえてきた、変化に繋がるいくつかの要因や条件を挙げる。

##### (1) 学校のビジョンとの関連性

ルールメイキングの意義が学校の目標やビジョンとの関連づけられ、学校づくりの中にしっかりと位置づいている学校では、学校関係者に

とってルールメイキングが一つのアイデンティティや文化になっており、教員や生徒全体への浸透にも効果が示唆された。

##### (2) 授業や他の教育活動との連携

授業や他の教育活動でも、ルールメイキングと関連した内容を取り上げたり、社会や政治に目を向け参加することを促したりする機会が

作られたりしている学校では、ルールメイキングの活動に中心的に関わる生徒以外でも、生徒の主体的な活動の広がりや効力感の醸成、

社会参加意識の形成といった効果がみられる傾向があった。

##### (3) 管理職の役割

管理職によるルールメイキングへの後押しや、その目指す考え方の浸透に向けたリーダーシップが、教員の意識変化や、生徒の主体性を

#### 今後に向けた課題

##### (1) 全校生徒への効果波及

全校生徒へのアンケートの結果からは、活動に中心的に関わった生徒だけでなく、生徒全体にもある程度波及効果がみられる部分もあった。

ただ、肯定的回答の割合は増加したものの伸び幅は限定的であることから、全校生徒にまで十分な効果がみられたとはいまだ言えない

ところも大きい。先述した授業や他の活動との連携など、全校生徒にも効果を広げていくことが引き続き今後の課題といえる。

##### (2) 教員間の対話の必要性

ルールメイキングの取り組みが、教員の意識変化や学校の対話的風土の醸成に寄与する可能性も見えてきた一方で、教員アンケートでは

活動に関わったことがある教員と他の教員とで意識の差がみられ、インタビューでも他の教員の主体的な参加を促す難しさが語られる

など、課題もある。校則見直しは、これまでの校則や生徒指導についての考え方、ひいては学校や教育のあり方もときに問い直すもの

でもあるため、学校組織としてのまとまりをもった指導や教育活動のためにも、教員同士の対話が重要と考えられる。こうした対話の重要性

が、実際に新たな校則やルールを適用し始めた学校の事例からも、改めて浮き彫りになった。

##### (3) 保護者・地域住民とともに変わっていく必要性

ルールメイキングの活動は、保護者や地域住民の学校に対するまなざしを変えていく可能性をもつ一方で、保護者や地域住民の理解

# 最終報告書目次

1. 事業者
2. 背景と目指す姿
3. 実証内容
4. 実施体制・実証フィールド
5. 成果
6. 今後の展開

## 6. 今後の展望

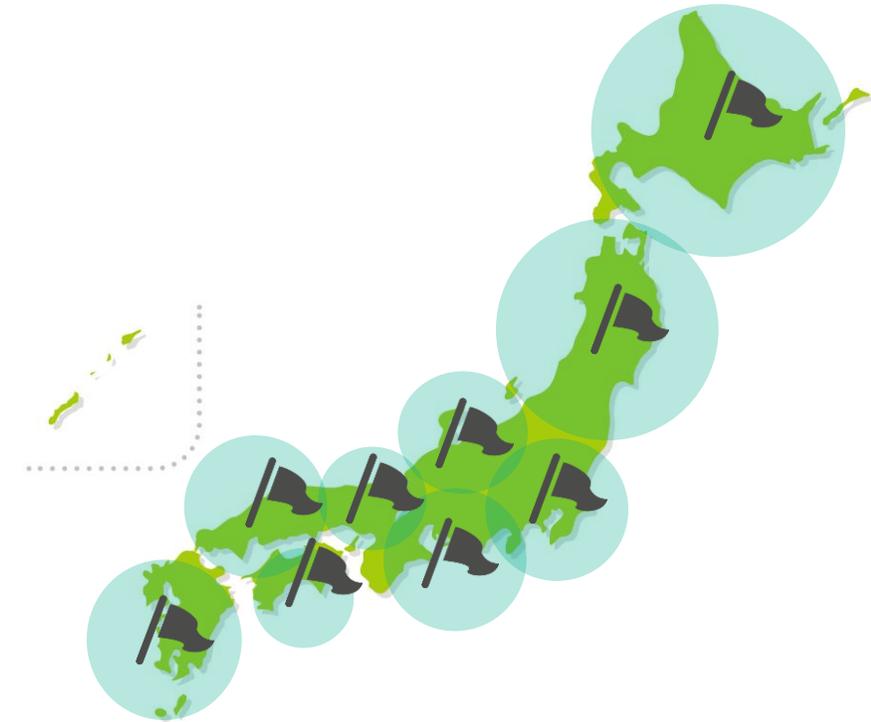
### ◆全国の学校に、ルールメイキング・対話の文化を届けるために

2019   2020	<ul style="list-style-type: none"><li>・ルールメイキングのモデルプロセスをつくる</li></ul>
2021	<ul style="list-style-type: none"><li>・11校の実証事業校の伴走により、多様な実践をつくる</li><li>・ルールメイキング動画教材／教員ガイドをつくる</li></ul>
2022	<ul style="list-style-type: none"><li>・ルールメイキングを実践する／実践したい教員の全国コミュニティをつくる</li></ul> <p>【実証から明らかになった全国に広げるためのポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・全校生徒や学校全体の変容を促すには、その前段階に教員の変容が必要である。</li><li>・コミュニティ内で教員同士がつながることで、教員による実践知の共有やアドバイスがなされ、ルールメイキング実践が促進される。また、教員や生徒の自発的な交流機会がうまれる。</li><li>・会える距離感／オフラインでの交流機会は、教員・生徒の学びを促進し、学び合いの効果が高い。</li></ul>
2023   2025	<ul style="list-style-type: none"><li>・全国9つの地域エリアに、ルールメイキング共助コミュニティをつくる</li></ul> <p>【明らかにしたい問い】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・共助コミュニティの成立要件—共助コミュニティはどうすれば生まれ・機能するのか？</li><li>・共助コミュニティの成長要件—共助コミュニティはどうすれば拡大・成長しつづけるのか？</li></ul>

### ◆3年後のVision 9つの共助コミュニティによってルールメイキングを支援する

#### プランの特徴

1. 全国、9つの地域エリアに共助コミュニティを立ち上げる。
2. 共助コミュニティには、それぞれコミュニティを活性化  
するコミュニティマネージャーを配置する。
3. 全国事務局の伴走支援機能を、共助コミュニティに移管  
する。
4. コミュニティ内で、ナレッジや悩みの共有、学校接続、  
教員間ナナメの関係などが生まれるように教員の熱量の  
高い共助コミュニティとする。
5. 推進テーマは、校則・ルールからスタートし、クラス単  
位での合意形成や授業実践、学校の環境改善・問題解決  
まで多様な「対話に夜合意形成」実践が生まれることを  
目指す。



全国に9つの  
共助コミュニティを。

## 6. 今後の展望

### ◆共助コミュニティの全体像

各地域エリア内では、STEP2-6の教員による主体的なアクションが生まれることが想定される。各アクションに応じて必要なサポート施策や機能を整えることで、共助コミュニティの活性化を図る。

	共助コミュニティの教員アクション	サポート施策・機能
Step1	情報収集をする	メルマガ等での一斉情報提供 教材の提供・配布
Step2	ルールメイキングの実践を知り、価値を実感する	多様な実践・学校種があつまる全国規模での 教員交流会 同エリア内での小規模な教員交流会
Step3	教材やガイドを活用しながら、自らの現場で実践を行う	個別の実践フォロー
Step4	生徒と一緒に交流の場に参加する	全国規模での生徒交流会 同エリア内での生徒交流会
Step5	生徒と一緒に発表の場に参加する	全国ルールメイキングサミット 同エリア内での生徒大会
Step6	企画づくりの主体になる 先行事例を外部発表・発信する	実践事例の発表・発信 同エリア内での企画運営・ノウハウ共有